

れいわ ねんど  
令和7年度

かながわけんとうじしやめせん しょうがいふくしすいしんじょうれい い しゃかい めざ  
「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して  
もと きほんけいかく けっか  
～に基づく基本計画」ヒアリング結果

れいわ ねん がつ  
令和7年11月

かながわけんふくしこ きよくふくしぶしょうがいふくしか  
神奈川県福祉子どもみらい局 福祉部障害福祉課

「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画」に関するヒアリング調査の結果について

1 ヒアリング調査の目的

「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画」の計画達成度を測る基礎資料とするため、障害当事者、家族、支援者等から幅広く評価を得ること及び意見を把握することを目的とする。

2 実施方法

- (1) 調査対象 当事者、家族、家族会等団体、支援者、事業者等
- (2) 調査実施方法 対面（県庁、事業所、当事者の自宅等）またはオンライン
- (3) 調査期間 令和7年9月22日（月曜日）から10月30日（木曜日）
- (4) 調査対象者 市町村自立支援協議会、障害者施策審議会、障害当事者部会、障害児者施設、当事者団体等関係団体（271か所）のうち調査協力が得られる個人または団体

3 調査の概要

調査人数 36箇所（74名） 個人または団体（38箇所申込、2箇所辞退）

調査協力者内訳

協力者	当事者	家族	支援者
人数	33	28	13

	障害児	障害者
箇所数	4	32

主な障害等の種類

	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	重症心身障害	高次脳機能障害
箇所数	7	17	4	1	1	6	0

実施方法 オンライン13箇所、対面23箇所

#### 4 指標の調査回答の概要

問1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどう思いますか。

回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
回答数	46	7	1	2

※アンケートで回答済等未回答あり

問2 障がいのある人は、日ごろの生活の中で、困りごとや不自由さを感じていると思いますか。

回答	感じていると思う	どちらかといえば感じていると思う	どちらかといえば感じていないと思う	感じていないと思う	わからない
回答数	41	10	1	3	0

※アンケートで回答済等未回答あり

しひょう しょうがい ひと みちか ふつう せいかつ あ まえ かんが かつ  
 指標 1 障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどうおもいますか。

	きにゆうしゃ 記入者	おも しょうがい など 主な障がい等の しゆるい 種類	せんたくし 選択肢	りゆうとう 理由等
1	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう 思う	ちいき う ちいき そだ まえ 地域で生まれて地域で育つことはあたり前。 さべつ こと 差別される事はない。
2	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	そう 思う	かんが かつ じっさい くべつ 考え方はよいが実際にできるか。区別すること そうほう ひつよう たが とが双方に必要。お互いのためになる。そうし ない けんじょうしゃ がまん ないと健常者が我慢することになる。 さいがいじ いっしょ つら 災害時はみんな一緒では辛くなることもある とおも と思う。
3	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう 思う	じょうれい しめ もんごん ぐたいてき しめ 条例に示されている文言は、具体的に示され てないので何を思い、やったらいいかわから ない。なにおも ない。相手をし、そういう人がいるのだとい あいて し ひと うことが必要なのではないかとおも ひつよう おも う。 そのためには、けん そのためには、県のインクルーシブ支援は しょうがっこう ようちえんじ すす 小学校からでなく幼稚園時から進めたほう がよい。いま ようちえん う い がよい。今ようやく幼稚園が受け入れてきた ところもある。むすめ げん さい とき 娘（現32才）の時はだめだっ た。 しょうがいじ うけい うけい 障害児を受入れたクラスと受れていないク ラスはやさ ちが ともだち い ラスは優しさが違う。友達が言うときちんと うご おや せんせい い 動ける（親、先生の言うことはきかないけど）。 ともだち つうがく 友達と通学することもあった。 たが いろいろ い み しょき だんかい お互いに色々な意味で初期の段階から けんじょうしゃ しょうがいしゃ かか ほう よ な ぜ 健常者も障害者も関わった方がよい。何故、 はや だんかい 早い段階でインクルーシブをしないのか。 ともだち そつえんご むすめ こえ 友達から、卒園後にたまに娘に声をかけてく たりしたことがうれ たりしたことが嬉しい。 ちいき えんちょうせんせい うけい 地域の園長先生が受入れないといけないと

				<p>言ってくれていた。たまに関わっていますで はいけない。受入れて日常的に共に過ごすこ とが重要。 障害者を関わりのない状況に置いてはい けない、国連で分離教育は否定されている。 特別支援学校がなくなったときどう対応する のか。できる子は自分で通学すればよいが、で きない子は送迎しないといけない。 環境づくりは小さい頃からやらないといけ ないのではないかと思う。戦後の優生保護法 を日本だけが広めてきたのがいけない。随分 以前の話だけど、今でもそれが根付いてい る、今でも少ないけど、きょうだい結婚に至 らないケースあるだろう。 差別を受けたことがあるか県が調べたことあ るか。法事やイベントに障害のある子を連れ てきていいのでは、やさしさを育む機会にな る。子どもの心の教育に繋がる、相手を認め 助ける、そういう教育には必要ではないか。</p>
4	支援者	知的障害	そう思う	<p>専門的に仕事をしてきた自分からすれば、「何 をいまさら」と感じることはある。一方で、 スーパーで見かけた成人で、自閉傾向もある 方について、手つなぎで息子の安全に配慮し ている保護者の方がいたのだが、それを見て 引いている様子の人もいた。100%の浸透はな かなか難しいとも感じている。</p>
5	本人	知的障害	そう思う	<p>身の回りに障害のある人がいることは普通 だと思う。</p>
6	本人	難病	どちらかとい えばそう思う	<p>障害就労支援事業所などが増えてきた、む しろ増えすぎている。 障害が特別視されていたのが身近になり過</p>

			<p>       ぎたのか、それがいいのかどうか分<sup>わ</sup>からない。        対<sup>たい</sup>等<sup>とう</sup>に扱<sup>あつ</sup>ってくれるのは良<sup>よ</sup>いが、特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>扱<sup>あつ</sup>い        は良<sup>よ</sup>くない。        障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>の支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>を必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>とする人<sup>ひと</sup>が増<sup>ふ</sup>えすぎている。        障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>年<sup>ねん</sup>金<sup>きん</sup>とかが本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>な人<sup>ひと</sup>に渡<sup>わた</sup>って        ない。恩<sup>おん</sup>恵<sup>けい</sup>だけ受<sup>う</sup>ける人<sup>ひと</sup>がいる。        医<sup>い</sup>者<sup>しゃ</sup>が言<sup>い</sup>うこと<sup>こと</sup>がすべ<sup>しん</sup>て、診<sup>しん</sup>断<sup>だん</sup>書<sup>しょ</sup>でうっ        病<sup>びょう</sup>診<sup>しん</sup>断<sup>だん</sup>を受<sup>う</sup>ければ、元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>過<sup>す</sup>ぎる人<sup>ひと</sup>が年<sup>ねん</sup>金<sup>きん</sup>を        受<sup>じゅ</sup>給<sup>きゅう</sup>していると感<sup>かん</sup>じる。悪<sup>わる</sup>いとは言<sup>い</sup>わない        が、適<sup>てき</sup>切<sup>せつ</sup>なのかどうかもわ<sup>わ</sup>からない。        自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>も年<sup>ねん</sup>金<sup>きん</sup>を受<sup>じゅ</sup>給<sup>きゅう</sup>しているが、年<sup>ねん</sup>金<sup>きん</sup>受<sup>じゅ</sup>給<sup>きゅう</sup>も        悪<sup>わる</sup>いと思<sup>おも</sup>う気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ちも出<sup>で</sup>てしま<sup>しま</sup>う。権<sup>けん</sup>利<sup>り</sup>主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>が        行<sup>い</sup>き過<sup>す</sup>ぎて、悪<sup>わる</sup>い面<sup>めん</sup>が出<sup>で</sup>ている。        例<sup>たと</sup>え<sup>え</sup>ば、う<sup>びょう</sup>つ病<sup>はつしやう</sup>発<sup>けい</sup>症<sup>しやう</sup>の経<sup>じやう</sup>緯<sup>わい</sup>で、上<sup>じやう</sup>司<sup>し</sup>に怒<sup>おこ</sup>られ        た→う<sup>びょう</sup>つ病<sup>はつしやう</sup>→年<sup>ねん</sup>金<sup>きん</sup>受<sup>じゅ</sup>給<sup>きゅう</sup>、それ<sup>ちが</sup>は違<sup>ちが</sup>うのでは        と思<sup>おも</sup>う。        発<sup>はつ</sup>達<sup>たつ</sup>障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>とかが身<sup>み</sup>近<sup>ぢか</sup>にな<sup>す</sup>り過<sup>き</sup>ぎてい<sup>い</sup>る気<sup>き</sup>も        する。そ<sup>ぜん</sup>ん<sup>いん</sup>なこ<sup>たい</sup>と<sup>しやう</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>たら全<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>、対<sup>たい</sup>象<sup>しやう</sup>にな<sup>い</sup>っ        てしま<sup>しま</sup>う。ど<sup>ぎ</sup>う<sup>もん</sup>なのだ<sup>だ</sup>らうと疑<sup>ぎ</sup>問<sup>もん</sup>がある。     </p>
7	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	<p>       住<sup>す</sup>んでいる地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>はグ<sup>お</sup>ル<sup>お</sup>ー<sup>お</sup>プ<sup>お</sup>ホ<sup>お</sup>ー<sup>お</sup>ム<sup>お</sup>が多<sup>おほ</sup>いので        利<sup>り</sup>用<sup>よう</sup>者<sup>しゃ</sup>が近<sup>ちか</sup>くに住<sup>す</sup>んでいる。近<sup>ちか</sup>くに24時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>        営<sup>えい</sup>業<sup>ぎやう</sup>のス<sup>か</sup>ー<sup>か</sup>パー<sup>もの</sup>が<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>り<sup>き</sup>買<sup>か</sup>い<sup>か</sup>物<sup>もの</sup>に<sup>き</sup>来<sup>き</sup>て<sup>き</sup>い<sup>き</sup>て、        自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の身<sup>み</sup>近<sup>ぢか</sup>に生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>して<sup>かん</sup>い<sup>かん</sup>る感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup>がある。        地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>のお祭<sup>まつ</sup>りや行<sup>ぎやう</sup>事<sup>じ</sup>や話<sup>わだ</sup>い<sup>わだ</sup>を<sup>わだ</sup>キ<sup>わだ</sup>ッ<sup>わだ</sup>チ<sup>わだ</sup>して<sup>わだ</sup>く        る。自<sup>し</sup>然<sup>ぜん</sup>に彼<sup>かれ</sup>ら<sup>せい</sup>は生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>して<sup>かま</sup>い<sup>かま</sup>るわ<sup>かま</sup>け<sup>かま</sup>で        も<sup>と</sup>なく溶<sup>と</sup>け<sup>と</sup>込<sup>と</sup>んで<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>る。普<sup>ふ</sup>通<sup>つう</sup>に<sup>ふ</sup>して<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ること        感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup>る。        選<sup>せん</sup>択<sup>たく</sup>肢<sup>し</sup>が1<sup>り</sup>で<sup>ふ</sup>ない理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>は、福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>職<sup>しょく</sup>な<sup>つよ</sup>ので強<sup>つよ</sup>く        感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup>る。福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>職<sup>しょく</sup>で<sup>き</sup>な<sup>き</sup>け<sup>き</sup>れ<sup>き</sup>ばそ<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>で<sup>き</sup>は<sup>き</sup>気<sup>き</sup>にし        たり、関<sup>か</sup>わ<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>ないか<sup>り</sup>も<sup>り</sup>し<sup>り</sup>れ<sup>り</sup>ない。利<sup>り</sup>用<sup>よう</sup>者<sup>しゃ</sup>の目<sup>め</sup>線<sup>せん</sup>        に立<sup>た</sup>て<sup>かん</sup>ば<sup>かん</sup>そ<sup>かん</sup>う<sup>かん</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup>るか<sup>ふ</sup>も<sup>ふ</sup>し<sup>ふ</sup>れ<sup>ふ</sup>ない。福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>職<sup>しょく</sup>は     </p>

				しゃがいいつぱん ちが かん かた 社会一般とは違う感じ方かもしれない。
8	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	こうたいきんむ しゅうだんせいかつ げんかいはん ほんにん よ 交替勤務、集団生活の限界がある。本人に寄 り添った支援がしきれない。困っている人が いるので、入所施設の役割は重要だと思 うが、地域でその人に合った生活ができるとよ いと思う。
9	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	じぶん い おどろ くらい 自分がピアだと言うと驚かれる位なので。
10	しえんしゃ 支援者	はつたつしょうがい 発達障害	おも そう思う	じぶん しんだん ひと 自分はそうであるし、診断されていない人も たくさんいる。ここに生まれてきたからには あたりまえ。
11	しえんしゃ 支援者	しんたいしょうがい 身体障害	おも そう思わない	よくはなつたけど、ヘルプマークを見ても知 らん顔の人も多い。配慮がある人ばかりでは ない。まだまだと感ずる。
12	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかとい えばそう思う	こ たち むすこ ちてきしょうがい たい はんのう 子ども達の息子（知的障害）に対する反応は おとな くら ふつう 大人に比べて普通になってきている。職員等 かか かつ いっしょうけんめい せけんいつぱん 関わっている方は一生懸命だが世間一般と なるとまだまだ理解が必要。
13	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	おも そう思う	しょうがい くべつ 障害があるからといって区別するのは ふしぜん しょうがい こ みちか 不自然。障害のある子が身近にいるという事 はまわりに与える影響も大きい。地域の子は こえ ちいき こ 声をかけてくれたりして、理解してくれてい る。本人、家族にとっても心強い。
14	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	おも そう思う	じぶん ちいき く まわ しょうがいしゃ 自分は地域で暮らしているし、周りに障害者 もいる。
15	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	おも そう思う	しんたいしょうがい み め ちてきしょうがい 身体障害は見た目でわかるが知的障害はわ からないので変な目で見られる。 「普通」というが、障害がわかったら差別か もしれない。あたりまえ いか も。あたり前と言えるのか？
16	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	どちらかとい えばそう思う	しゃがいぜんぱん かんが 社会全般としては、考えないといけないのが あ まえ おも しょうがい ていど あたり前だと思うが、障害の程度によっては

				<p>むづか しょうらいてき おも      難しい。将来的にはそうなってほしいと思      っている。</p>
17	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	どちらかとい えばそう思う	<p>いぜん くら      以前に比べればよくなっている。      この質問というのは健全者からみたもので      すよね。書き方を変えた方が良いのでは。      しょうがい ちが しょうがい      障害によって違いがあるので、もう少しかみ      くだいた表現にした方がよいと思う。</p>
18	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思う	<p>あに ちてきしょうがい こ しんたい しょうがい      兄が知的障害、子には身体に障害がある。そ      れが生活の一部となっている。みんなにも      ふつう      普通であってほしい。まわりはまだまだ、どう      しても色々なところで差は出ている。</p>
19	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	そう思う	<p>こ ねんまえ ねんかんにゆういん      子どもが12年前から10年間入院していた。そ      の時は当たり前ではなかったが、今はそう思      える。      かながわけん まんにんにゆういん ねんいじょう ちょうき      神奈川県では1万人入院、1年以上の長期      にゆういん せんニン しゃかいふくしほうじん      入院が6千人いる。とある社会福祉法人のグ      ループホームで暮らしている方（重度重複      しょうがい かね ひと      障害）は、お金と人がかけられれば、地域で      暮らせる。ただ、精神障害の方は、身体は元気      だが、それができないでいる。しかし、地域で      と ぐ とうぜん おも      取り組みば当然のこととしてできると思う。      グループホームをやればやるほど地域で一緒      に共に暮らしていけると思うが、残念ながら      まだまだ地域とはギャップがある。グループ      ホームを建てる前から地域で反対に会う。      じっさい せいかつ      実際の生活はもっとギャップがある。      せいしんしょうがいしゃ かいしゃ がっこう いや      精神障害者は会社や学校で嫌なことがあると      や ひ ふとうこう ふ      病んだり、引きこもりをして、不登校も増えて      いる。労災（精神）も増えている。事件や自殺      も起きる。      ちいき かつどう かんが ことば たいせつ      地域の活動で、そういう考えや言葉は大切だ</p>

				が、実際は本当に難しい。嬉しいことは、グループホームに関わっていて、家から一歩出て、生活を共有して明るく生活できるようになる姿を見ること。しかし、世の中とのギャップがある。どうしたらよいのか、このギャップを地域包括ケアで何とか良い方向にできないか。
20	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	15～16年前、高校の先生が、車に例えると一家に一台、それだけ実際精神障害者がいるのではないかと saying いた。多くの家族は公にしていなくて、実際はそれなりにいる。隠したい思いがある。それなりの数の家庭でその状況は今も変わってはいないと思う。公にしたくない、言いたくない気持ちがある。
21	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	以前、生活支援センターの運営委員会で、自治会長が偏見がとれないねと言っていた。地域住民は精神障害者は何をするかよく分からないから怖いと思っている。テレビで事件などの報道があると、精神症状があると、事件になったことを結び付けて、やはり怖いと思われる。そんな人ばかりではない、まじめに生きている方々がたくさんいるが、そこを払拭するのは大変。関わりがないと理解してもらえない。そのあたりの壁がある。
22	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	おも そう思う	弟が精神障害で、普通に生活できるようになって欲しいが、本人が俺は精神障害だからもうだめだと前に進めない。当事者本人にも、もっと啓蒙して欲しい。自己否定の気持ちが払拭できないでいる。
23	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	おも そう思う	悩む人は地域にあまり出てない人ではない

				<p>わたし ちいき か。私たちのグループは仕事しながら地域で せいかつ 生活している。ナンセンスな質問だと思<small>おも</small>う。</p>
24	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思 <small>おも</small> う	<p>いぜん くら しょうがいしゃ み ふ 以前と比べると障害者を見かけることが増 えた。あたた め おも おも じぶん 温かい目になってきたと思<small>おも</small>う。自分は めいわく 迷惑をかけてはいけないと思<small>おも</small>い、家族と行動 するとき<small>くるま いどう</small>は車で移動していた。さいきん でんしゃない 最近<small>さいきん</small>は電車内 らんぼう あしおと しゅうい ふつう で乱暴な足音でも周囲は普通に<small>ふつう</small>に<small>して</small>いてくれる。</p>
25	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	そう思 <small>おも</small> う	<p>ふつうがつきゅう しょう こ 普通学級で障がいのある子がいたクラスで は、で き こと おぎな まな きかい 出来ない事を補<small>おぎな</small>うなど学びの機会があっ た。しょう ひと しぜん ふくし しごと つ 障がいのある人が自然<small>しぜん</small>に福祉の仕事<small>しごと</small>に就 いたりするの<small>も</small>みている。 そういう意味<small>いみ</small>でもあたり前<small>まえ</small>。</p>
26	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	そう思 <small>おも</small> う	<p>みちか く あ まえ ぜんてい しょう 身近<small>みぢか</small>に暮らすのは当たり前<small>あ</small>、前提<small>まえ</small>として障<small>しょう</small>が いと呼<small>よ</small>ぶのが好き<small>す</small>きではない。 とく こ とくせい こせい とくちょう 特に子どもは、特性<small>とくせい</small>、個性<small>こせい</small>というか特徴<small>とくちょう</small>みた いなものだと思<small>おも</small>う。障<small>しょう</small>がいがある人<small>ひと</small>と呼<small>よ</small>び、 しょう おも しょう ひと よ 障<small>しょう</small>がいと考<small>かんが</small>えるのは少し違<small>ちが</small>うと思<small>おも</small>う。分け しょう かんが すこ ちが おも わ て考<small>かんが</small>えるのではなく当然<small>とうぜん</small>として考<small>かんが</small>える。</p>
27	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい えばそう思 <small>おも</small> わ ない	<p>かぞく のぞ み き 家族<small>かぞく</small>を除<small>のぞ</small>いてみると、あまり見かけない気<small>き</small>が するため。</p>
28	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかとい えばそう思 <small>おも</small> う	<p>かぞく のぞ せいかつ なか 家族<small>かぞく</small>を除<small>のぞ</small>いても、生活<small>せいかつ</small>の中<small>なか</small>にいらっしやると かん 感<small>かん</small>じるため。</p>
29	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	そう思 <small>おも</small> う	<p>しょうがい こま 障<small>しょうがい</small>害<small>がい</small>あってもなくても、みんなが困<small>こま</small>っている ことをおたが さいき 互<small>たが</small>い支<small>さいき</small>えながら暮<small>く</small>らしていくのが だいじ う 生まれ せだ いえ さいご す 大事<small>だいじ</small>。生まれ育<small>そだ</small>った家<small>いえ</small>で最後<small>さいご</small>まで過<small>す</small>ぎすのが だいじ おも 大事<small>だいじ</small>だと思<small>おも</small>う。</p>
30	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	そう思 <small>おも</small> う	<p>ちいき むすこいがい しょうがいしゃ み 地域<small>ちいき</small>で息子<small>むすこいがい</small>以外の障<small>しょうがい</small>害<small>がい</small>者<small>しゃ</small>を見ることはない。 み せいしん ヘルプカードは見<small>み</small>かける。精神<small>せいしん</small>でもつつけてい</p>

				<p>る方がいる。ただ、何のメリットがあるのかと 言う人もいる。</p>
31	家族	身体障害	そう思う	<p>障害者に関する法律があり、その通りになる のであるから当たり前。</p>
32	支援者	知的障害	そう思う	<p>身近に普通に生活していると思う。日常の 風景だと思う。 縁がありこの仕事を選んだ。楽しくてここま でいさせてもらった。福祉は初めての職場。 毎日1回は笑っている。 利用者はこういうふうと思うのだと感じるこ とが多い。 自分は小さい子どもがいるが、自分の家と変 わらない感じがする。</p>
33	家族	知的障害	そう思う	<p>そうあってほしい。自分もいつそうなるかわ からない。子の行動障害で近所とトラブルに なった事がある。トラブルの相手としては当 たり前と思えないかもしれない。</p>
34	家族	重症心身障害	どちらかとい えばそう思う	<p>昔に比べて周りの目は変わってきてはいる。 これからはもっと当たり前になるとよいが、 まだまだだと感じる。</p>
35	支援者	知的障害	どちらかとい えばそう思う	<p>なかなか普通に生活するというのは地域の 理解もあるし、特に重度の人は頭ではわかっ ていても難しい。古くから住んでいる人には 理解されるが、新しい人には難しいかもしれ ない。地域との交流は積極的に行ってい る。</p>
36	本人	知的障害	そう思う	<p>以前は同じ団地に一緒に働く人がいた。 車椅子の人がいても不思議とは思わない。</p>
37	本人	身体障害	そう思わない	<p>一般の人は思わないのでは。</p>

しひょう しょう ひと ひ せいかつ なか こま ふじゆう かん おも  
 指標 2 障 がいのある人は日 ごろの生活の中で、困り ごとや不自由さを 感じて いると思  
 いますか。

	きにゆうしゃ 記入者	おも しょう など 主な 障 がい等 しゆるい 種類	せんたくし 選択肢	りゆうとう 理由等
1	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障 害	どちらかと い えば 感じ て いると思 う	ほんにん かん 本人は 感じて いないと思 う。 りゆう おや 理由は 親が いつも フォロー して いるため。
2	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障 害	かん 感じ ている と思 う	じぶん しょう しゃ かの 自分が 障 がい者 に関わ っている こと も あるた め。
3	しえんしゃ 支援者	せいしんしょうがい 精神障 害	かん 感じ ている と思 う	す 住まい について、退院 促進 される 方は 家族 と ふなか かの おお よ ご わる 不仲 な 方が 多い。そう すると 予後 が 悪い。 グループホーム は 満床、不 動産 や からは 断ら れる。 とうじしゃ なや いちばん かぞく にぼんめ りようしゃかん 当事者 の 悩み の 一番 は 家族、二 番目 に 利用者 間 の 関係。経験 不足 による 困り 感。でき ていた こと が でき なくな っ て 辛い。 とうじしゃほんにん だ 当事者 本人 が SOS を 出す、わ からない こと を き 聞く こと が 一番 大事 だ と思 う。 ふじゆう じぶん ほんい 不自由 さ は 自分 の 本意 で ない こと が 周囲 で 起 きて いる こと か。き 気に しなければ いい のに。
4	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障 害	かん 感じ ている と思 う	じりつ こりつ き さき さき 自立 と は 孤立 にな っ て いる 気が する。支え、支 え られ て いく の が 自立 だ と思 う。 しょうがいしゃだんたい あ まえ じぶん 障 害者 団体 は や っ て も ら っ て 当 たり 前、自分 たち だけ で か た ま っ て しま っ て しま っ こと が ある。 しょうがいしゃ し だれ よ わる 障 害者 は リトマス 紙 の よう に、誰 が 良 い か 悪 い か すぐ わ かる。
5	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障 害	かん 感じ ている	しゃかい てきしょうへき すく ぶつりてき くふう 社会的 障 壁 など、少 なく と も 物理 的 な 工夫 で かいけつ か 解決 できる も の について は、ど ん どん 変 えて い

			おも と思う	けると良いと思う。
6	ほんにん 本人	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じている おも と思う	かね た 足りなくて困っている。自分(じぶん)はまわりから「貸(か)して」って言(い)われてしまいがち。
7	ほんにん 本人	なんびょう 難病	かん 感じている おも と思う	こじんてき かん 個人的には感じてない。周囲(しゅうい)の方(かた)々は適切(てきせつ)にや つてくれている。医(い)者(しゃ)も行(ぎょう)政(せい)の方(かた)々(た)も。 ただ、知(し)っている人(ひと)のケースで、真(ま)逆(ぎやく)の人(ひと)もい る。 せんてんてき のうせい 先天性(せんてんてき)に脳(のう)性(せい)マヒの 17歳(さい)の女(じょ)性(せい)の 話(わ)で、 ほそうぐ でんどうくるまいす 補(ほ)装(そう)具(ぐ)(電動(でんどう)車(くるま)椅子(いす))の支(し)給(きゅう)申(しん)請(せい)を拒(きょ)否(ひ)された。 ほんにん うご 本人(ほんにん)が動(うご)かせないと判(はん)断(だん)、親(おや)のためではだめだ と。話(わ)せない人(ひと)にとつては 必(ひつ)要(よう)なこを必(ひつ)要(よう) なものが届(とど)かない。更(こう)生(せい)相(そう)談(だん)所(じょ)の担(たん)当(とう)者(しゃ)の判(はん) 断(だん)や裁(さい)量(りやう)で決(き)まるのはどうか、担(たん)当(とう)の経(けい)験(けん) で左(さ)右(ゆう)もさされている。
8	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかと いえば感じ ていると思 う	りようしゃ じぶん 利用者(りようしゃ)は自分(じぶん)のやりたいこと(こと)をして、土(ど)日(にち)は特(とく) に楽(たの)しんでいると思(おも)う。特(とく)に何(なに)かできな(こ)いと困(こま) つては(い)ないと思(おも)う。 ただ、病(びょう)院(いん)で受(じゆ)診(しん)拒(きょ)否(ひ)はさ(れ)ないが、ち(ゃん)と した診(しん)断(だん)が(い)できな(い)と言(い)わ(れ)る。自(じ)分(ぶん)で症(しょう)状(じょう) を表(ひょう)現(げん)が(い)できな(い)と問(もん)診(しん)が(い)難(むず)か(い)。支(し)援(えん)者(しゃ)の 代(だい)弁(べん)だけ(は)本(ほん)当(とう)のこ(と)が(つ)た(づ)え(ら)れ(な)い。 か こ 過(か)去(こ)に、あ(る)利(り)用(りよう)者(しゃ)が末(ま)期(き)の(が)ん 疑(ぎ)い(の)時(とき) にうま(く)伝(つ)え(ら)れ(な)か(つ)た。い(ち)早(はや)く対(たい)応(おう)でき(な) か(つ)た。 しょうがい 障(しょう)害(がい)のあ(る)方(かた)は自(じ)分(ぶん)の気(き)持(も)ちをダイレ(ク)クトに つた(づ)え(る)こ(と)が(い)難(むず)か(い)こ(と)が(あ)る。あ(き)ら(め)て し(ま)う部(ぶ)分(ぶん)も(あ)る。通(つう)じ(な)い部(ぶ)分(ぶん)はあ(き)ら(め)る こ(と)も(あ)るか(も)し(れ)な(い)。も(っ)と早(はや)く分(わ)か(つ)て あ(げ)ら(れ)た(ら)良(よ)か(つ)たと思(おも)う。 こころ からだ 心(こころ)と体(からだ)の状(じょう)態(たい)をうま(く)伝(つ)え(ら)れ(な)いも(ど)か

				<p>しさ、何かしたくても伝えられない、あきらめざるを得ないもどかしさがある。</p> <p>地域の支援者が吸い上げて汲み上げたいけど100%は難しい。</p> <p>障害のある方は伝えたいことと現実の中でどうしたらよいかわからないと思う。</p> <p>就労支援や支援者として関わられるが、生活の中での多くの部分では関われないから、どこまでご家族等が関わってくれているかにかかる。</p>
9	支援者	知的障害	<p>感じている と思う</p>	<p>集団生活の不自由さがある。</p> <p>重度の人は本人が言えるかどうかは別だが、相部屋を改修して個室にしたところ状況が良くなった。相部屋が不穏につながっていたのではないかと思う。</p> <p>軽度の人は日頃から不自由さを感じやすいと思う。</p>
10	支援者	発達障害	<p>感じている と思う</p>	<p>身体に障害のある人は本来ある機能がない部分があるので不自由。</p> <p>精神に障害のある人はストレスから威圧的になってしまったり、孤立したりしやすいので自分が困る。</p>
11	家族	知的障害	<p>どちらかといえ ば感じている と思う</p>	<p>例えば字は読めても、その内容が行動につながらないという事をまわりに理解してもらえず、不自由を感じる。</p>
12	家族	重症心身障害	<p>どちらかといえ ば感じている と思う</p>	<p>本人は大切にケアされる環境にいますので感じていないと思う。親としては色々なサービス(レスパイト、訪問看護等)を使ってはいるが、自分の身体が空かない。本人の下に3人の弟妹もいる。みんなが少しずつ気を使って</p>

				がまん 我慢している感じ。
13	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	だいこうはん 40代後半から見えなくなった。 だんたい 団体に入っていたり、じょうほう 情報があるとおも 思ったほどではないが、みえてい 見えている時よりはふじゆう 不自由。
14	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	じこくひょう 時刻表などは見えなくなった。
15	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	ヘルパーをたの 頼んだり、くふう 工夫したりしてせいかつ 生活しているがふじゆう 不自由はある。じぶん 自分ではどうにもできないこともある。
16	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じている おも と思う	むかし 昔とかわった。ちいき 地域でせいかつ 生活するのがあたりまえ 当たり前というかんが 考えになった。 ちいき 地域がめんどう 面倒を見られない、おや 親がこうれい 高齢になった時にめんどう 面倒を見られるか？とおも 思うとふじゆう 不自由さが大きくなる。グループホームににゅうきよ 入居していないひと 人はさらにたいへん 大変。
17	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じている おも と思う	いりようめん 医療面について、しょうに 小児についてはじゅうじつ 充実しているが、せいじん 成人はふじゅうぶん 不十分であるとかん 感じている。しょうに 小児のとき 時はてあつ 手厚いサポートがあつたが、せいじん 成人になつたとたん にサポートがよわ 弱くなった。 じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害は、かいわ 会話やいしけつてい 意思決定ができるしょうがい 障害とはちが 違う。しょうがい 障害のていど 程度によって、こま 細かいはいりよ 配慮があつてほしい。しょうがい 障害のていど 程度によってしゃかい 社会的なさべつ 差別があるとかん 感じるので「しょうがい 障害」でひとくくり にしないでほしい。
18	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じている おも と思う	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害の場合ほんにん 本人たちはひょうげん 表現できない。ぶんしょ 文書をかんが 考えてほしい。 スーパーでこえ だ 声を出す、て だ 手を出すというこうどう 行動に対してりかい 理解がほしい。
19	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じている	てんきよ 転居をするたびにおおこえ だ 大声を出すことに対してくじょう 苦情があつた。

			おも と思う	じゅうきよ 住居のエレベーターが2週間程使えない事 があり、いえ へいえ へいえ へいえ へいえ 家へ帰れず、不自由な生活となった 期間があった。
20	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかと いえば感じ ていると思 う	なに 何かあった時の避難場所。その時になつてみな いとわからないが、受け入れてもらえないと思 っている。 にんずう おお 人数も多い(40人定員)、障がいの種類も様々。 た ひなんしゃ 他の避難者と上手くやっていけないのではと 感じる。 じしん ご自身はマイペースで自分の生活をしている つもりだが、ちいき みせ 地域のお店からは苦情が来ること もある。(※家族だが事業所の管理者)
21	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じている おも と思う	ねんまえ ひとりく 2年前に一人暮らし始めた方が家を借りる時 にたいへん 大変だった。審査が通らなかった。源泉 ちようしゅうひよう しょうがいねんきんじゆきゅうしょう ていしゆつ 徴収票、障害年金受給証を提出すると、 なに しょうがい 何の障害か聞かれて精神障害と答えたら、オ ナーがせいしんしょうがいしゃ オーナーが精神障害者はだめだと断られた。そ ういうケースを3回くらい見てきた。 ふどうさんや て つ 不動産屋は手を尽くしてくれるが、オーナーが ことわ 断る。 いぜん にゆうきよしゃ へ や やしき 以前の入居者が部屋をゴミ屋敷にしたからな ど、その時に借りたい本人が悪いわけでないの にそうになってしまう。本人も「なんでなんだ よ。」と怒ってしまった。 ご あ しょうがいねんきんじゆきゅう かく もう こ その後、敢えて障害年金受給を隠して申し込 むと、しゅうにゆう すく ことわ 収入が少なく断られるかと思つた ら、しゅうにゆう ひく で ほんにん い 収入が低くてもOKが出た。本人は生き にくいと思つていると思う。安心して住まいが みつけられる方法があると良い。
22	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じている	グループホームにいる人は自立に向かい頑張 っている。ありがたいのは自治会の会長に

			<p>おもう と思う</p>	<p>ちいき おうえん じりつ む 地域で応援してもらえている。自立に向かって サテライト型(普通のアパートで)で一人暮らし しをしている方もいる。 サテライト型を始める時に、精神障害者にア パートを貸せないと言われた。自治会長が せつきよくてき こうしょう じかん 積極的に交渉してくれて、時間はかかった が、何軒か借りられるようになった。 ほか いま か ざんねん 他のところは未だに借りられない。残念だけど 貸してもらえない。 いっぽ ふ だ ちいき く 一歩踏み出して地域で暮らすところができな い。アパートを借りられずに一歩出られない、 そういうことがまだまだ多い。地域で一緒に とりくみ かたがた ひつよう おも 取組をしてくれる方々が必要だと思う。 いろいろ ちいき そうじ か まつ てっだ 色々と地域の掃除とかお祭りとか手伝えれば おも せいしんしょうがいしゃ いっぽ ふ だ と思っている。精神障害者が一歩踏み出せる りかい ちいき りかい 理解ある地域になるといい。理解されるとい い。</p>
23	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	<p>かん 感じている おもう と思う</p>	<p>ほ バスのカードをICカードにして欲しい。 しょうがいしゃ しきゅう う かみ 障害者が支給を受けるカードは紙ベースなの で、自分は一般と違うのだと思う時がある。小 さいことだが。</p>
24	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	<p>かん 感じている おもう と思う</p>	<p>く かた もけい つく グループホームに暮らしている方が、模型を作 るのが好きだが、施設基準上、カラスプレー す しせつきじゅんじょう を使ってはいけない。自分で色塗りできないこ つか じぶん いろぬ とが嫌だから、アパート暮らしをして、制約無 く自分の好きなように組み立てて色を塗りたい い と言っている。</p>
25	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	<p>かん 感じている おもう と思う</p>	<p>しゅうろうけいぞくしえん がた こうちん やすす がんば 就労継続支援B型では工賃が安過ぎる。頑張 って働いているのに、今は実家があるから はたら いま じっか 生活できるが、工賃では生活できない。時給100 せいかつ こうちん せいかつ じきゅう 円、その現実がまかり通っていることがどうな</p>

				<p>のか、もう少し工賃が良くなると良い。</p>
26	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	<p>どちらかといえは感じていると思う</p>	<p>それほど感じていないと思う。100均の店舗で障害者雇用で働いている。障害者はレジの業務はやらせてもらえない。自分は障害者だと認識させられたと残念そうに言っていた。</p> <p>近所にスーパーがあるが、有人レジで財布からお金を取り出すのが嫌なのか、小銭を出すのが苦手なのか、紙幣でお釣りをもらう。後ろに並ばれるのが嫌みたいだ。自分なりに工夫している。一般医療で入院する際に、病院に確認して、せっかく病院へ行ったのに、精神障害があると断られる。仲間からもそのようなことを聞く。困りごとに対応できる情報をもっと紹介して欲しい。</p>
27	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	<p>かん 感じている おも と思う</p>	<p>やくしょ 役所の発信物が障壁を作っている。役所のサービス自体が障害となっている。</p> <p>たとえば、発信物の全文版と分割版があると良い。選べる仕組みがあると良い。パソコンで見ると冊子で見るとで違う。また、パソコンレベルの違いもある。使える人は使えるが、使えない人は使えない、格差が生まれてきてしまう。選べる仕組みがないと障壁が生まれる。</p> <p>ホームページ掲載の資料も分割と一括があればよい。とにかく配慮が必要。障害の関係ではない、同じ県民として見られない差別がある。視覚障害者は音声だとルビはかえって読みづらい、多様性、障害で違うことを理解して欲しい。どちらも必要、ひとつの発信で皆に届けようとするのがそもそも間違いだと思う。</p> <p>ユニバーサルのようにひとつのみでみんなに</p>

				<p>という概念もあるが、選べる仕組みもユニバーサルにはある。やはり、ひとつでみんなは難しいと思う。</p>
28	本人	身体障害	<p>感じている と思う</p>	<p>健全者でも困ることはあるだろうが、障害者の方がより困る可能性が高い。生活の仕方と度合いはあるが、障害者が生活の中で困らないこと無く、必ず一日一回はある。困らないということは全くなく、むしろ困っている。</p>
29	家族	知的障害	<p>感じている と思う</p>	<p>外出中、ファミレスの男性用トイレで介助するのは気まずい。 地域に馴染む目的で外出するが、ちょっと休憩するスペースがない。すべてに不自由を感じる。外見で障害とわかると理解してもらいやすい。 支援者としては、日々謝ることが日常になっている。警察、裁判所、世間には障害者の特性は様々であることを理解してもらいたい。(※家族であり支援者でもある)</p>
30	本人	重症心身障害	<p>感じている と思う</p>	<p>外出したい。毎日出かけられると良い。 絵画教室(もしくは展示会)にヘルパーと月1回行っているだけ。なかなか施設のスタッフだけでは難しい。ドライブもできるが、順番があり、月1回程度。 市内のプールにリフトがあればもっと良いの にと思う。</p>
31	家族	身体障害	<p>どちらかといえば感じている と思う</p>	<p>外から見えない障害のある場合、本人が打ち明けないと周りが理解できない。ただ本人として打ち明けるかどうかの気持ちもある。企業も合理的配慮をするようになり、変わってきている。障害のあるなしに関わらず普通に生活できるとよい。皆が困らない社会にしてほしい。</p>

32	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかといえ ば感じていると思 う	<p>どちらの人もいる。感じている人もいる。感じていない人もいる。6対4くらいに感じる。</p> <p>保護者は困ることがあたり前と感じているので、困っていないと感じているのだと思う。</p> <p>もっと選択肢があったら良かったのと思うことはある。</p> <p>学校、日常生活、教育、病院受診、そういう対応があたり前なので、いつものことかと思うくらい。困り感を感じない、仕方ないと思っ ている。</p>
33	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかといえ ば感じていないと思 う	<p>本人は最初からそれが日常。周りの人に協力を得て、本人のできる範囲でやっている。</p>
34	かぞく 家族	はったつしょうがい 発達障害	どちらかといえ ば感じていると思 う	<p>幼少期は手厚い支援で見てもらって、生きやすい形で大きくなった。人により大きくなると環境によっては支援から遠くなり、大変になる人もいるのではと感じている。</p>
35	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていると思 う	<p>外出は親と一緒にしているが、本人が本当に行きたいところに行かせてあげられていない。</p>
36	かぞく 家族	せいしんしょうがい 精神障害	かん 感じていると思 う	<p>精神科に通院している人は診られないと病院で言われた。自分も付き添いしたが断られたことがある。</p> <p>市の当事者連絡会（3障害・視覚・聴覚・自閉症など）で集まった。会社の昇格試験で自分（障害当事者）には話がこないと言っていた。</p>
37	かぞく 家族	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている	<p>人それぞれだが感じるのでは。困りごとは多々ある。環境が整っていれば不安も減る。</p>

			おも と思う	
38	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	しんたい ふじゆう はい 身体が不自由でも入りやすいお店を探すのに くろう 苦勞する。
39	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	ねんれい だい しょうがい お 年齢が80台になり、障害を負ってからの時間 じかん が長くなった。戦後すぐの頃からみたら、だい ぶ暮らしやすくなったと思う。
40	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	そうおも 思っているけど、はた み 傍から見たらそうではな いかもしれない。かぞく しゅうい めいわく 家族や周囲に迷惑かけている かもしれないともおも 思う。
41	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	すうねんまえ しせつ うかが とき かいだん て 数年前、ある施設に伺った時、階段の手すりが かたがわ い だん お 片側しかなく、トイレに行く5～6段を降りる とき こま つえ はず お 時に困った。杖をつく和外れて落ちてしまうの で お けいけん こわ し で（落ちた経験あり）怖さを知っている。なぜ こうきょう しせつ 公共の施設でそうなのかがっかりした。そう いうことにきがついてくれていたら、とうじしゃ めせん ふくし がんば かいだん あ 目線の福祉になるのでは。頑張って階段を上 ろうと思ってもおも つか 掴まれるところさえないのは つら 辛い。
42	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	しかくしょうがい したいふじゆう りょうほう しかく 視覚障害と肢体不自由の両方がある。視覚 しょうがい とき てんじ たよ 障害だけの時は、点字ブロックを頼っていた が、したいふじゆう あし とつき ひ が、肢体不自由では足がブロックの突起に引 かかったりして、じつ あぶ したいふじゆう 実は危ない。肢体不自由には じゃま 邪魔になる。 そうさくかつどう い つ そ ひつよう 創作活動に行きたいが付き添いが必要なので、 じゅうじつ よ おも 充実すると良いと思う。 したいふじゆう しかくしょうがい ひと やくしょ 肢体不自由で視覚障害の人もあるから、役所 いろいろ せいど かんが ほ が色々な制度を考えて欲しい。 か もの い とき つえ か もの 買い物に行く時に杖をついていると買い物か ごが持てないのでとても困る。びょういん 病院などはボ ランティアの案内人がいるがたいおう げんかい 対応の限界があ

				<p>と思う。こちらからも伝えてみて対応してくれるのか、言ってみるのも良いと思う。</p>
43	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	<p>しかくしょうがい 視覚障害でバスのICカードがこま 困る。バスで どこの席が空席なのかわからず困ることがあ る。バスは視覚も肢体不自由もみな苦勞してい ると思う。</p>
44	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じていな おも いと思う	<p>ほこうき か の 歩行器を借りているが、バスに乗れなくて困 る。くるまいす うんてんしゆ たいおう 車椅子は運転手が対応してくれるが、 ほこうき しょうがい すこ かる じょうたい ひと うった 歩行器で障害が少し軽い状態の人は訴えな い。むずか たいおう 難しい、対応してくれないことがある。 たくシーはかず すく なく 奪い合いになっ ている。そうげい よ えん ね あ 送迎を呼ぶのに500円に値上がりした。</p>
45	ほんにん 本人	しんたいしょうがい 身体障害	かん 感じている おも と思う	<p>いえ だ おお ふくろ とき たいへん 家でゴミを出すのが、大きい袋になる時が大変。 げんかん まえ だ い かたて 玄関の前に出してくれと言われるが、片手では それできない。みうち きんじょ たの 身内やご近所に頼むしかな い。</p>
46	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じている おも と思う	<p>じどうはんばいき か もの くつ むす 自動販売機で買い物をするにも、靴のひもを結 ぶにも、み め ふつう かた 見た目は普通な方でもできない方もい る。いっしょ 一緒にいればやってあげられるけど、一人 ではできないことが多い。一人では大変だと思 う。例えば さい かた おお 覚えるのは難 しいと思う。 たくさんやるのがあって、ひとり 一人でやるのが むずか ふじゆう おも 難しく不自由だと思う。ちょっとした不自由 さも しゃかい なか おお かん 社会の中では多いと感じる。 さいきん じぎょうしょ たてもん ふる だんさ おお 最近、事業所の建物が古く段差も多いので、 げんかん て かいしゅう おこな 玄関、スロープ、手すりなどの改修を行った ら、べんり だいぶ便利になった。そういったことでも こま ふじゆう かんきょうせいび ひつよう 困りごとや不自由はあり、環境整備も必要だ と感じる。 くつ ぬ べ たいへん きけん ともな 靴の脱ぎ履きはけっこう大変で危険が伴う。</p>

				くるまいすりようしや 車椅子利用者はいないが、それでも大変さを感じ る。ハード面の改修をしたら便利になった。
47	かぞく 家族	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じている おも と思う	じぶん ふかい がまん ばめん であ 自分が不快で我慢できない場面に出会ったり する。親が守っていかなければと思う。
48	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じている おも と思う	おや たちば こ そだ ため くるう こま 親の立場だと子どもを育てる為の苦労や困り ごと事がある。 トイレやエレベーターの事を常に考えたりす ることで自分の行動の選択肢が狭くなったり もする。
49	かぞく 家族	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じていな おも いと思う	こ たちば かん かいしゅう おも 子の立場だと感じていないと思う。
50	しえんしゃ 支援者	じゅうしょうしんしんしょうがい 重症心身障害	かん 感じている おも と思う	だんさ おお 段差が多い。 せいど た 制度が足りていない。
51	しえんしゃ 支援者	ちてきしょうがい 知的障害	どちらかと いえば感じ ていると思 う	しゅうだんせいかつ 集団生活になっているので、自由というところ では制限されている。そのあたりで窮屈な のではと思う。 がいしゅつ きほん しょくいん つ そ 外出も基本は職員が付き添うので。
52	ほんにん 本人	ちてきしょうがい 知的障害	かん 感じていな おも いと思う	つき かいていど 月に1回程度ヘルパーさんがくるが、一人暮らし をしている。出かける時のバスの本数が少な いかな。

ヒアリング項目①

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 1	すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱 (3)	意思決定支援の推進
	もくひょう 目標	誰でも自らの意思が反映された生活を送れる社会を目指します

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・後見制度を利用している。G Hの家賃支払いの際にはお金を持って来てくれる。話しやすい人で、自分が家賃以外のことでお金が使いたいと伝えると、すぐに持って来てくれる。

・自分で自分のことを決める人には良いと思うが、話せない人や目が見えない人などはどうなのだろうか。そういう人たちは自分の意思決定がなされているのか？目の見えない人がヘルパーを頼んだけど、希望した時期の対応が難しく、自分の都合が事業者都合になってしまい、使いたいときに断られた人がいた。母親は意思決定できるが、その障害のお子さんができるかどうか。できていないと思う。親や支援者目線になっている。自由のはずが、環境によって自由を奪われ、環境によって、自由であるはずなのに自由に意思決定できないこともある。

自分が障害者でなければ障害者とはそれほど会う場はなかった。自分自身で制約しているのか家族や社会がそうさせているのかはわからないがまだ接点は少ない。

たとえば、障害になる前に遺書を書いていた。やりたいことを書いたが、それができない人の意思決定は難しい。人間関係でも変わる。ヘルパーが良くても自分が良くないと思う、逆もある。人間関係、相性、信頼関係も関わり、うまく意思を伝えられない。個人だけでは意思決定は進まない。雰囲気だけになっている。

・言葉は聞いた事があるが、視覚障害者は意思決定できるから、身近ではない。

・本人が決められるように周りがフォローするけど決められなかったりする。

・言葉を知る為の情報が少ない。情報を全部伝えてもらっているかがわからないので自分がそれを理解しているとは限らない。

・意思決定するためには情報を知らないと収集しないと判断できない。信号も分からない。視覚障害は情報障害、情報を得ることは意思決定支援で必要なことだと思う。情報収集を含めての意思決定支援が必要だと非常に感じる。音声の出ない信号機を何とかして欲しい。身体に届く情報がないから何も決定できない。見える人にだけ届けている。信号

以外にも役所の情報もそうだ。見えることが当たり前前の情報だけでは困る。まだまだ情報の提供、発信は少ない。視覚障害者に移動の権利がないと感じる。

・意思決定支援が希望とか望みを受け入れることなら、盲導犬がいても入れる店がもっとあるはず。そういったことができているかできてないかという課題もある。

新しい店に行く時はどきどきする。一人だとまだいいが、友人と一緒に自分が盲導犬と行くがために断られてしまうと、自分が障壁だと思ってしまう。社会の中で、白杖を使って歩いている分には妨げられないが、色々なサービスを利用した時に感じることはある。それば不自由さを感じる理由でもある。

・視覚障害も理解力がないと思われることが障壁だと思う。以前、選挙公報を理解できずかと聞かれたが、理解できる。メディアがそういう見えない媒体でくるから理解できなくなることになる。見えないようにして、あなたたちが障害を作っているのではないかと思う。私たちは意思決定支援されなくていい。自分で状況の判断できる人に意思決定できますかって聞くことがナンセンスだと思う。

・どちらかといえば知的障害の問題だと思う。

・私の夢 絵の個展を開くこと、市内には場所がない、いつかは開きたい。

ヘルパーさんと絵の教室に月1回習いに行っている。もっと障害者のアートを紹介できる場が欲しい。

・好きなものを食べたい。食えることが大好き、スイーツ大好き、自分でケーキ選ぶ。かわいい女子でいたい、メイクしてお出かけしたい。カフェスイーツ巡りしたい。

みんなにおもてなししたい。女子会やカラオケ大会の幹事をしたい。誰かのために何かをしたい。自分自身も楽しみたい。皆が笑顔でいたい。

・子どもたちに迷惑かけるのが一番心苦しい、けどなかなか伝わらない。人それぞれだと思っけど、周囲に迷惑をかけてはいけないという気持ちがある。

・障害になって、手足を悪くして25年になる。何か言われるわけではないけど、自分で気にしてしまうことがある。

・「希望通りになっていますか？」の問いには「なっています。」との回答。

・視覚障害でいえば、ガイドヘルパーが本人に聞かずに目的地への行き方を決めるといった事例が近い。

・視覚障害者の意思決定に必要なのは情報提供。データをメールで送ってくるが、いまだにPDFが送られてくる。そこは理解してほしい。

・視覚障害者の場合は、情報さえきちんともらえれば自分で意思決定できる。PDFも、

文書を改ざんしないためだろうが、テキストを送るか、メール本文に貼り付けてほしい。

## (家族)

・本人が何をしたいのか。どうすれば安心できるのか。関わり方を工夫するなどしてわかろうと周りが努力してくださっているのを感じる。事業所では1日一回は笑える出来事がある  
とよいという目標がある。

・本人が意思を発するのは難しいが表情やしぐさで嫌かどうかはわかる。好きなことには動きが積極的になる。学校に行きたいのだろうと思う。医療・福祉・教育が連携してほしい。

・この考え方をいつも持っている。どちらがいいか、何をやりたいかと問いかけて決めている。とは言っても、作業に関しては好きな作業だけでなく他もやらせたいと思う。いずれにしても周囲の協力ができない。

・娘は喜怒哀楽がはっきりしているので、嫌なことやストレスに感じることは、発作や体調を崩して示す。家族はそれを目安にしている。また、福祉機器として購入したアイトーク(会話補助装置)を使っている。

・本人は外に出た経験があるからこそ外に行きたいという気持ちがあふれ出ているのわかる。

・後見人の手続きをしたくても家庭裁判所(本庁)に本人を連れていく必要がある。市内には家裁がないので遠いなど負担になっている。市内に家裁の後見人部署を作りたい。

・何かをする時は必ず利用者さんに確認をとっている。発語できない方との意思疎通は難しい。意思確認カードをわかりやすく作る方法を模索している。はい いいえ ○×など。

その人の仕草や癖を職員が共有して理解するようにしている。日頃からコミュニケーションの時間をとるようにして記録をしている。ストレングスを取り入れるようにしている。

・19歳頃に発症し12年入院、コロナ禍は人手不足で、外出や面会制限が続き、作業療法もしたりしなかったり、入浴が週一回になったりなど、対応が悪くなることが多々出てきた。そのため外泊を3回くらい試して退院できた。看護師からは入院患者は暇そうに見えると言われた。皆やることのないのは事実。それならば家に帰って、動画や音楽、新聞、趣味のこと等をしたほうが良いと思った。病院にいても仕方がないと思った。

家族の力もあり、本人も取り組んだ。2週に一回通院しているが、退院して良かったと思

っている。  
・就労継続支援B型に通っていて、意思決定のことで困ってはいない。きちんとまじめに選んで決めている、気を付けて会話をしている。

- ・強制的な入院が一番問題。医療保護入院については意思決定の問題ではないか。
- ・子どもが精神の病気になる親自身は傷つく。過干渉になる。どうせできないだろうからと無視されがちになる。本人も自分の気持ちを伝えるのが下手、親が自分をやらなければいけないとの思いになってしまう。最初だけなら良いが、親が何でもやっしまい、子どもの意思決定を無視して、親が何でも勝手にやっしまっている。
- ・あるところで、子どもは何もできないのだから親が何でも代わってやっやらないと何もできないと言っていた。そういうところでは意思決定支援が無視されてきた。50才を過ぎても親にそうされてしまう。親も切り替えができない、乗り越えられない、第三者の支援が必要ではないか。
- ・自身が管理者を務めるグループホームには第三者委員を設置している。法人によっては内部委員の場合もあり、外に向いていない気がする。
- 三者で話していても当事者の意思を伝えられていない。
- 当事者の意思表示を支援員が理解するのは時間がかかる。座学の研修で学んでもできるはずがない。個々の特性、関係性を作ることから始めないとわからない。他害は制止ではなく理由を探らないと解決しない。家族だからわかることもあった。
- ・生まれた時から選択の日々。本人と相談しながらやっっている。とはいっても2つ位の選択肢であったり、感じ方をみて決定している。本人が意思を直接伝えるのは難しいので親である自分が入っ見極めをっしている。いろいろ相談できる環境があってこそその意思決定だと思っ。
- ・言葉が出ないので、絵カードを交換して意思疎通している。目の前にあるものは選べるが、ないものは選べない。練習して、イエス・ノーのサインを使える事で、選択の幅が広がった。
- ・練習はっしているが選ぶのが苦手。数ある選択肢の中からひとつ選ぶのがなかなか決められない。学校や放課後等デイサービスの先生に理解を求め、情報を共有してスムーズにっしていけるようにっしていきたい。意思決定をする練習の経験をスモールステップで行ってこそできるようになる。意思決定するための練習が大事。練習しなければできるようにならない。初めから選択肢をたくさん出すことが意思決定ではない。
- ・最初は本人の意思を確認するのが難しかったが、本人に確認することで理解できるようになった。小さいころからの積み重ねが重要だと思っ。本人も言葉や態度で示すことはできるので、時間をかければ本人の気持ちを理解できる。本人の表情や表現を受け止めてあげる気持ちが支援者にもあっったほうがいい。

・支援という形で受けたことはない。精神の場合は妄想がある場合もあるから、それが本人の意思なのか。ただ、家族がアドバイスしたことよりも、本人自身が決めたことの方が続くのは確か。「家族は（当事者に近すぎて）支援者になれない」という言葉もあるが、第三者を急に入れようとしても本人は拒否する。

本人は信頼がない人には話さないで、まずは安定した信頼関係を結ぶことが大事。支援者からアプローチしてきて関係を聞いてもらった方がよい。支援者はどうにかしてあげたい気持ちがあると思うが、まずは話を否定しないで聞いてくれる、思いを寄せてくれると話がしやすい。家族会自体もそういった環境。

・親の生活にあわせて子どもに生活してもらっている。親としては本人にあわせると親が不自由になる。親の支援を考えてほしい。

考えとしてはわかる。幼少期からスタートしてその人を取り巻く人達がチームで判断することが必要。成年後見人をつける際の意思決定はどうやってやったらよいのか。

セルフプランと計画相談支援、どちらを選ぶか決めさせてほしい。誰もが計画相談を受けたわけではない。

・表情や声の抑揚で汲み取る。

・パソコン入力して検索はできる。選択肢があれば返事はできる。ルール作りはしている。本人の意思を汲んでもらえるように職員さんをお願いしている。

・何かするときは声をかけてから行ってほしいとお願いしている。

・付き添ってもらいながら、自由にできる時間を作ってもらっている。

・親の意思決定支援ガイドラインはないよね。

### (支援者)

・自分の見立ての力をつける。目の前の当事者に関心を持って深掘りをして、見る目を養う。

・推進していきたい。

利用者から希望がでたら就労の話を進める。精神障害の場合、途中で障害を負っている。就労経験のある方が体調を崩すと回復に8か月はかかる。本人の意思決定を重視している

が本人の責任も生じるため出来ない事もある。意思決定だけでは進められない。コントロールが必要。障害者雇用代行ビジネスにB型事業所は引っ掻き回されている。

・他の事業所とか他のサービス利用をしながらここにも来ている。多くの人の目線が本人に入る。多くの人が関わるとよりよい、相性もあり、この人は嫌だ、この人の言うことは聞く、そうやって本人の選べる環境をつくるのが大切。親の意見が強すぎることもある。

環境<sup>かんきょう</sup>とかも考え<sup>かんが</sup>ないと、絶対<sup>ぜったいてき</sup>的なこと<sup>こと</sup>はないから、本人<sup>ほんにん</sup>とみんな<sup>みんな</sup>で考え<sup>かんが</sup>ていけたらより良い<sup>よい</sup>と思う<sup>おも</sup>。

・現職場<sup>げんしょくば</sup>の前に勤務<sup>まへ きんむ</sup>していた入所施設<sup>にゅうしょしせつ</sup>には「やりたい<sup>かな</sup>を叶<sup>も</sup>える」というスローガンの下、県の条例<sup>けん じょうれい</sup>や意思決定支援<sup>い し けつてい し えん すいしん</sup>の推進<sup>まへ</sup>がされる前<sup>まえ</sup>から、実践<sup>じっせん</sup>に日頃<sup>ひごろ</sup>から取り組<sup>と</sup>んできた。しかし、実際<sup>じっさい</sup>には当事者<sup>とうじしゃ</sup>の特性<sup>とくせい</sup>は様々<sup>さまさま</sup>で、発作<sup>ほっさ</sup>が多い<sup>おほ</sup>・物<sup>もの</sup>からの刺激<sup>しげき</sup>に弱い<sup>よわ</sup>等<sup>など</sup>、本人<sup>ほんにん</sup>の意思<sup>い し</sup>を尊重<sup>そんちょう</sup>して欲<sup>ほ</sup>しがるま<sup>たいおう</sup>まに<sup>よくぼう</sup>対<sup>ほ</sup>応<sup>ほ</sup>して、欲望<sup>よきゅう</sup>に歯止<sup>かな</sup>め<sup>そぼう</sup>が利<sup>き</sup>かなくなり、要求<sup>ようきゅう</sup>が叶<sup>かな</sup>わず、粗暴<sup>そぼう</sup>行為<sup>こうい</sup>になってしま<sup>け</sup>い、怪我<sup>けが</sup>をした職員<sup>しよくいん</sup>が出<sup>で</sup>たりした。やはり、個人<sup>こじん</sup>個人<sup>こじん</sup>で幸<sup>しあわ</sup>せに過<sup>す</sup>ごすための適正<sup>てきせい</sup>な刺激量<sup>しげきりょう</sup>があるように感<sup>かん</sup>じている。意思決定支援<sup>い し けつてい し えん</sup>のリーフレット<sup>リーフレット</sup>については、関わり<sup>かか</sup>り方<sup>かた</sup>の基本<sup>きほん</sup>の型<sup>かた</sup>を知る意味<sup>い み</sup>で、新人職員<sup>しんじんしよくいん</sup>には良い<sup>よ</sup>と思う<sup>おも</sup>が、障害<sup>しょうがい</sup>の程度<sup>ていど</sup>が重い<sup>おも</sup>人<sup>ひと</sup>にも外出<sup>がいしゅつ</sup>をということにつな<sup>そくめん</sup>がった側面<sup>つ</sup>もある。津久井<sup>つ</sup>やまゆり園<sup>えん</sup>の件<sup>けん</sup>もあり、こうしたこと<sup>こと</sup>の意思<sup>い し</sup>を尊重<sup>そんちょう</sup>するとい<sup>てん</sup>う点<sup>す</sup>が、「住<sup>す</sup>まいをどこにするか」とい<sup>ほしょう</sup>うことを保障<sup>ほしょう</sup>しまし<sup>はなし</sup>ようとい<sup>はなし</sup>う話<sup>はなし</sup>が先行<sup>せんこう</sup>しているように思<sup>おも</sup>う。理念<sup>りねん</sup>が浸透<sup>しんとう</sup>していくためには、まず、理解<sup>りかい</sup>のある人<sup>ひと</sup>が手本<sup>てほん</sup>を示<sup>しめ</sup>していくこと<sup>こと</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>だと感<sup>かん</sup>じる。

・事業所<sup>じぎょうしょ</sup>で県<sup>けん</sup>の事業<sup>じぎょう</sup>を水平展<sup>すいへいてん</sup>開<sup>かい</sup>している。

言葉<sup>ことば</sup>にしなくても当<sup>あ</sup>たり前<sup>まえ</sup>のこと<sup>こと</sup>と思<sup>おも</sup>う。生活歴<sup>せいにかつれき</sup>など過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>を知る<sup>し</sup>ことが大切<sup>たいせつ</sup>。ご家族<sup>かぞく</sup>、ご両親<sup>りょうしん</sup>とどうい<sup>せいにかつ</sup>う生活<sup>けいか</sup>をしてきたか、ここ<sup>こ</sup>にきてからの経<sup>けい</sup>過<sup>か</sup>も踏<sup>ふ</sup>まえて、どうい<sup>しえん</sup>う支<sup>ゆう</sup>援<sup>こう</sup>が有<sup>しえん</sup>効<sup>ゆう</sup>か検<sup>けん</sup>討<sup>とう</sup>する。経<sup>けい</sup>験<sup>けん</sup>しない<sup>けいけん</sup>とイメ<sup>い</sup>ジで<sup>じ</sup>き<sup>よ</sup>ない。経<sup>けい</sup>験<sup>けん</sup>しても<sup>よ</sup>ら<sup>せん</sup>って、良<sup>よ</sup>いもの<sup>せんたく</sup>を選<sup>せん</sup>択<sup>たく</sup>して<sup>もら</sup>う。一<sup>いっ</sup>回<sup>かい</sup>だけ<sup>だけ</sup>で<sup>なく</sup>、二<sup>にかい</sup>回<sup>かい</sup>、三<sup>さん</sup>回<sup>かい</sup>と何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>も繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>して<sup>みる</sup>。どうい<sup>ぜんいん</sup>うも<sup>むずか</sup>まだ全<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>は難<sup>むずか</sup>しいので特<sup>とく</sup>定<sup>てい</sup>の方<sup>かた</sup>にス<sup>あ</sup>ポ<sup>あ</sup>ット<sup>あ</sup>当<sup>あ</sup>てること<sup>こと</sup>にな<sup>ほんとう</sup>って<sup>みな</sup>しま<sup>つ</sup>う。本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>は皆<sup>みな</sup>にや<sup>つ</sup>りた<sup>つ</sup>いが、ま<sup>つ</sup>だま<sup>つ</sup>だ積<sup>つ</sup>み<sup>つ</sup>重<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>や時<sup>つ</sup>間<sup>かん</sup>が<sup>お</sup>必<sup>お</sup>要<sup>も</sup>。これ<sup>お</sup>が<sup>お</sup>でき<sup>お</sup>れば、利<sup>り</sup>用<sup>り</sup>者<sup>しや</sup>の自<sup>じ</sup>己<sup>こ</sup>実<sup>じ</sup>現<sup>げん</sup>、幸<sup>しあわ</sup>せな時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>お</sup>え<sup>お</sup>ると<sup>おも</sup>う。一<sup>ひとり</sup>人<sup>かた</sup>の方<sup>かた</sup>にチ<sup>かか</sup>ーム<sup>かか</sup>で関<sup>い</sup>わり<sup>けん</sup>、い<sup>だ</sup>ろ<sup>あ</sup>んな意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>を出<sup>だ</sup>し合<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>ブラ<sup>あ</sup>ッ<sup>あ</sup>ッシュ<sup>あ</sup>ア<sup>あ</sup>ッ<sup>あ</sup>プ<sup>あ</sup>して、時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>を<sup>か</sup>か<sup>か</sup>けて<sup>か</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>して<sup>い</sup>く。過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>の<sup>はなし</sup>話<sup>はなし</sup>や生<sup>せい</sup>活<sup>か</sup>歴<sup>れき</sup>を<sup>ひ</sup>引<sup>ひ</sup>き<sup>つ</sup>継<sup>つ</sup>ぐ<sup>むずか</sup>こと<sup>むずか</sup>は難<sup>むずか</sup>しいこと<sup>むずか</sup>もある。法<sup>ほう</sup>人<sup>じん</sup>内<sup>ない</sup>や近<sup>ちか</sup>い関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>機<sup>き</sup>関<sup>かん</sup>は共<sup>き</sup>有<sup>ゆう</sup>でき<sup>が</sup>る<sup>が</sup>、外<sup>がい</sup>部<sup>ぶ</sup>の他<sup>た</sup>機<sup>き</sup>関<sup>かん</sup>から<sup>だ</sup>と<sup>むずか</sup>難<sup>むずか</sup>しい面<sup>めん</sup>もある。

ご家族<sup>かぞく</sup>についてはことあるごと<sup>き</sup>に聞<sup>き</sup>こうと心<sup>こころ</sup>掛<sup>が</sup>けて<sup>い</sup>る。親<sup>おや</sup>御<sup>ご</sup>さん<sup>ご</sup>は高<sup>こう</sup>齢<sup>れい</sup>にな<sup>ただ</sup>って<sup>ただ</sup>お<sup>ただ</sup>り、正<sup>ただ</sup>しく思<sup>おも</sup>い出<sup>だ</sup>せ<sup>なく</sup>、どうい<sup>お</sup>うも<sup>お</sup>美<sup>び</sup>化<sup>か</sup>され<sup>る</sup>な<sup>る</sup>ど<sup>る</sup>の齟<sup>そ</sup>齟<sup>そ</sup>は<sup>あ</sup>る<sup>が</sup>、聞<sup>き</sup>く努<sup>どり</sup>力<sup>りよく</sup>は<sup>し</sup>て<sup>い</sup>る。皆<sup>みな</sup>で<sup>みな</sup>行<sup>ぎやう</sup>政<sup>せい</sup>も<sup>ふく</sup>含<sup>ち</sup>めて<sup>ち</sup>地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>で<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>都<sup>と</sup>度<sup>ど</sup>聞<sup>たい</sup>いて<sup>お</sup>対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>して<sup>い</sup>る。(聞<sup>き</sup>きたい<sup>き</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>き</sup>聞<sup>き</sup>け<sup>ない</sup>とき<sup>き</sup>も<sup>あ</sup>る<sup>が</sup>。)

・意思決定支援<sup>い し けつてい し えん</sup>の位置<sup>い し けつてい</sup>づけ<sup>い</sup>が重<sup>じゅう</sup>要<sup>よう</sup>にな<sup>じゅう</sup>って<sup>じゅう</sup>い<sup>じゅう</sup>る。重<sup>じゅう</sup>度<sup>ど</sup>の障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しや</sup>は話<sup>はなし</sup>が<sup>い</sup>でき<sup>ない</sup>、意<sup>い</sup>思<sup>し</sup>の<sup>い</sup>表<sup>ひやう</sup>出<sup>しゅつ</sup>が<sup>い</sup>でき<sup>ない</sup>、それ<sup>よ</sup>を<sup>と</sup>どう<sup>しよくいん</sup>読<sup>まい</sup>み<sup>ねん</sup>取<sup>ど</sup>る<sup>ど</sup>か。職<sup>しよくいん</sup>員<sup>まい</sup>は毎<sup>まい</sup>年<sup>ねん</sup>度<sup>ど</sup>異<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>ので</sup>、4<sup>が</sup>月<sup>げつ</sup>に<sup>けん</sup>研<sup>けん</sup>修<sup>しゅう</sup>を<sup>お</sup>こ<sup>な</sup>な<sup>な</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>。園<sup>えん</sup>内<sup>ない</sup>に<sup>きろく</sup>記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>が</sup>、記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>意<sup>い</sup>思<sup>し</sup>決<sup>けつ</sup>定<sup>てい</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>に<sup>めい</sup>名<sup>めい</sup>称<sup>しょう</sup>を<sup>へん</sup>変<sup>へん</sup>更<sup>こう</sup>した。入<sup>にゅう</sup>所<sup>しょ</sup>施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>は<sup>しよくいん</sup>職<sup>しよくいん</sup>員<sup>いん</sup>が<sup>こう</sup>交<sup>こう</sup>替<sup>たい</sup>勤<sup>きん</sup>務<sup>む</sup>の<sup>きろく</sup>た<sup>の</sup>め<sup>の</sup>記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>に<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>に<sup>き</sup>残<sup>ざん</sup>す<sup>よう</sup>に<sup>し</sup>て<sup>い</sup>る<sup>が</sup>、共<sup>き</sup>有<sup>ゆう</sup>の<sup>しかた</sup>仕<sup>むずか</sup>方<sup>かた</sup>が<sup>むずか</sup>難<sup>むずか</sup>しいた<sup>め</sup>め<sup>め</sup>記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>シ<sup>し</sup>ス<sup>し</sup>テ<sup>て</sup>ム<sup>む</sup>を<sup>どう</sup>導<sup>どう</sup>入<sup>にゅう</sup>した<sup>と</sup>こ<sup>ろ</sup>、記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>が<sup>へい</sup>平<sup>へい</sup>準<sup>じゅん</sup>化<sup>か</sup>でき<sup>い</sup>以<sup>い</sup>前<sup>ぜん</sup>よ<sup>り</sup>も<sup>きろく</sup>記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>お</sup>えた。意<sup>い</sup>思<sup>し</sup>決<sup>けつ</sup>定<sup>てい</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>

を進めるために計画相談は7～8割の利用者につけている。後見人や計画相談をつけて本人の考えが活かせるようにしている。重度障害者を受け入れるグループホームが増えれば地域移行は進むと思うが、意思決定が進むと応えきれない現状がある。

・どこをとって意思決定というのか疑問に思っている。

本人の都合のいいように楽な方に考える。その先の苦労やつまづきを見据えてアドバイスするものではないのか。

・合理的配慮といっても線引きが難しい。利用者がきちんと障害サービスを理解して使っているのか不安になる事がある。利用者の言葉だけではなく、表情なども含めて気にして対応するようにしている。行動がどういうところからそうなっているのかを考えるようにしている。

・本人の意思決定というのは本人の思いのみではないと思う。難しい言葉。現場では配慮しているつもりだが、匙加減が難しい。

・障害者に手を貸してくれる人ばかりではないと感じる。聞こえないふりをする人もいる。どれだけ車椅子が大変か知ってもらい、障害者の暮らしの大変さを知ってもらい、当たり前前になると良い。

・計画相談の際に、児童の計画は保護者と話をして、本人から話を聞けていない。本人とは放課後等デイサービスを通じて関わったりしながら意思を汲み取る。成人でコミュニケーションが取れる方は一緒に話しながら、取れない人はご家族や後見人と話をして意思を汲み取る。本人の微妙な動きやしぐさなどから感じ取るようにしている。児童期は保護者と話をしていろいろと決めていくが、18歳になると、本人に聞くようになるので、急に本人に話がふられる。児童に対してもっと早く意思決定支援を始めた方がよい。どこもまだあまり意思決定支援を児童の計画相談で取り入れてないので、自分たちはそこを取り入れるようにしている。18歳で区切る必要はないのではないかと。「おやつはどちらが良い？」から始めて、色々確認していくことを増やしていく必要がある。放課後等デイサービスは親が希望、本人希望があるが本当に療育支援が必要なのかと思うケースもある。そもそも放課後等デイサービスを利用しなくても良いと思うケースもある。塾とかスポーツクラブとか、もしくは家にいたほうが良いと思う時がある。障害かもしれないと、何かしなければと保護者は焦って放課後等デイサービスを利用させているが、今の時期は家で良いのではとも思う。病院にもよる。母への問診で、「こんなことできない。こんな症状がある。」という訴えで、療育の必要性の診断書は書けてしまう。医者も子どもの100%を見て書いているわけではない。学校とも話をしてしているのに、本人も状況も理解して言えている、必要ないと



ヒアリング項目②-1

おおばしら 大柱	ちゆうばしら 中柱 6	こよう しゅうぎょう けいざいてきじりつ しえん かん 雇用・就業、経済的自立の支援に関するしくみづくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (1)	しゅうろうしえん じゅうじつ 就労支援の充実
	もくひょう 目標	しょうがい ていど じょうたい とくせい おう あんしん はたら 障害の程度や状態、特性に応じて、安心して働くことができる しゃかい めざ 社会を目指します

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・現在の仕事は大変だけど、みんなで作業することは楽しい。課題を克服(遅刻等)して一般就労がしたい。まわりにも一般就労したい人がいっぱいいる。

今の仕事のほか、他の事業所での仕事もやってみたい。チャレンジしたい。まわりにもやっている人がおり、気になっている。

仕事時間については長い(9時から15時15分まで)。午前中・午後と別のところで働きたい。

・毎日楽しく通っている。タオル畳みをやっている。

・キャンプ用具の備品を袋詰めする仕事をしている。週5日、月曜日から金曜日まで。25年通っている。仕事はもっとやりたい。できるとほっとする。福祉の担当の人に紹介されたのがきっかけ。実習してこの仕事について。慣れるまではスタッフが教えてくれる。

仕事量が増えたとよい。前は残業もあった。仕事があるとやる気がでる。

(家族)

・最初の就労継続B型では仕事の指示書を作成して工夫したが、業務外の時間の約束事等で上手いかず、人間関係でのめめごとが多かった。生活面での指示書のようなものがあるとよかったのかもしれない。今の事業所はスムーズ。

・就労継続支援B型事業所、就労へのサポートはうまくいっている。やめてしまいたいという話をあまり聞かない。楽しいと言っている人を知っている。

・どのような職種、作業が適しているか事業所等で見極めてほしい。10年くらいのスパンで見るとも大切。自身も障害者雇用の仕事をしていた時期がある。始めた当初は、朝作業に遅れてくる利用者に対し「仕事に来ているのだろう!」と怒って喧嘩になったこともあった。長い目で見るようにと助言を受け接したところ、今では後輩を教える立場になるほど成長した姿を見ている。長いスパンは必要だと思う。

・日中活動の中で、野菜の袋詰め等を行い、年1回給料をもらっている。

・利用者の8割ほどが就労継続支援B型に通っている。今後一般就労もでてくるかもしれない。就労したい人はいるが、どうしても連携先がいつも同じになってしまう。もう少し就労先の情報が充実して収集できるとよい。その人に合うところをみつけられる情報。負担なく通える制度があるとよい。送迎サービスをもっと利用できると通える人も増える。

・働ければ良いが、症状が重いと働きたくても働けない。22才から年金一級受給(20才から遡り受給)。援助があっても働くことができない。

入院中に「働かなくていいわね」と言われ、「俺は作業所に行かないからな」と言っていた。働くことを目標に考えていたが、申立書のチェック項目をみたら、就労は難しいと思った。無理して働かなくて良いと伝えている。生活をまずは優先して欲しい。働けない人もいと、含んで計画を推進して欲しい。

上を目指して就労継続支援A型に行く人、反対にB型事業所に戻る人もいる。働くことをあまり強調し過ぎても、困る人もいることもわかって欲しい。

・セルフプランがまかり通っている。相談がついていれば、一旦退職した後の再就職も進めやすいが、家族が探すのは難しい。

地元には重心の方も多。就労継続支援B型でも難しい。全員が「就労」ではないと思う。送迎を求める家族は多く、企業の事業所だと送迎が充実しているので人気はあるが、活動の内容が充実していない。親亡きあとを考えると就労よりもまず住まいを考える。

・子どもは重度で言葉は出ないが、ルーティンが好き。好きな事でいい環境があれば働けるのではないかと考えている。

・好きなものや、得意な事に対する意欲はあり、集中できる。ただ臨機応変や重要な事が出来なかつたりする。まだ先の事だが好きや得意を生かして働ける環境があればよいと思う。

・前の就労先は、親が決めてしまったが、本人に合ってなかったため辞めた。今の作業所は、親が行政へ相談しないで、見つけてきたが、本人の意思で決めた場所である。

親が決めるのではなく、本人の意思で就労先が決められることが大事だと思う。

・就労支援と特別に言葉にしなくても、昔は職場に障害を持つ人が入ってきても、上手に受け入れる風土があった。そういう時代の事を参考にしてもよいのではないかと。

福祉だから障害者だから安くて当たり前という感覚をやめてほしい。工賃、バザー、作品。

税金を払えるような仕事ができるとよい。

・職場では当事者目線を大事に接してもらっていると感じる。休みたいときは休み、やれそうなきは職員さんたちが本人の気持ちを盛り上げて作業に取り組みさせてくれる。受注

さぎょう なみ あんてい ふ  
作業に波がある。安定して増やしてほしい。

げんき えがお じぎょうしょ かよ しごと  
・元気で笑顔で事業所に通うことが仕事。

しえんしゃ  
(支援者)

こようかんけい りかい こと たいせつ がっこうせいかつ しゅうろう  
・雇用関係をしっかり理解する事が大切。学校生活から就労へとスムーズになだらかに  
いこう かんきょう だつないしょく ちよくせつじゅちゅう か  
移行していける環境があるとよい。脱内職、直接受注に変える。

しょうがいしゃしゅうぎょう せいかつしえん けいえい あんてい ちいき ちい  
・障害者就業・生活支援センターについて、経営が安定しない。地域を小さくしたほう  
がよいと思う。評価実習のために事業所を提供することがある。

しゅうろうしえん すいしん  
・就労支援は推進している。

しゅうろう ぜんたいすう おお そう め む かんが おも しゅうろう ぜんだんかい  
・就労は全体数の大きな層に目を向けた考えだと思う。就労の前段階がしっかりしてな  
い層に目を向けて欲しい。まず豊かに生活し暮らすことをしっかりしてから就労に繋げる  
ことを考えて欲しい。仕事をメインに置かれると、仕事をしていない障害者が置いていか  
れる。障害者が何故に存在するかを考えて欲しい。障害者は生きてることが仕事な方  
もいる。

じぎょうしょ しゅうろういこうしえん しゅうろうけいぞくしえん がた しゅうろうていちゃくしえん しゅうろうせんたくしえん しんき  
・事業所では就労移行支援、就労継続支援A・B型、就労定着支援、就労選択支援(新規)  
を事業運営しているが、いちばん しえんがっこう しょうかい かた おお  
一番は支援学校からの紹介の方が多い。

いっばんしゅうろう むずか かた おお いっばんしゅうろう たいしょく しょうがいしゃしゅうぎょう せいかつ  
一般就労が難しかった方が多いが、一般就労していたが退職して障害者就業・生活  
しえん しょうかい かた  
支援センターからの紹介などの方もいる。

がた がた こうちん たか きぼう かた おお そうだんしえんじぎょうしょけい しょうかい  
A型、B型とも工賃が高いため、希望される方は多い。相談支援事業所系から紹介される  
方も多い。就労支援や障害者雇用の充実のためには、社会とつながることを意識してい  
る。障害のある方を知ってもらふ必要がある。社会福祉士の実習などをよく受けるが、  
じぎょうしょ けいけん しょうじき しょうがい ほう さぎょう おも  
事業所の経験してもらうと、「正直、障害のある方が、こんなに作業できると思ってなか  
った。」との感想がある。実習生の障害者感が変わる。「こんなこともできるんだ、こうい  
うこともできるんだ。」と思うようになる。障害の有無に関わらず、得意不得手があると思  
う観点に至る。障害のある方でもこういうことができるのと知ってくれる。施設で製造して  
いるトマトジュースにしても、しょうがいしゃしせつ つく  
障害者施設で作っているジュースだからではなく、美味し  
いトマトジュースがあって、どこで作っているのかとおもったらしょうがいしゃしせつ  
と。一般企業と同様に正当な評価を受けて、障害のある方でもここまでできることわかっ  
てもらふことをしている。じどうしゃ ぶざいかこうくみだて さぎょう せいひん ひんしつじゅうし たいせつ  
自動車の部材加工組立の作業をしている。製品の品質重視が大切  
で、品質を上げるノウハウが必要。プロと組むことが必要、工場製品加工管理の仕事で退職  
した方などに指導を受けて、作業の治具を作成してもらい、製品管理をして信頼を得て仕事  
につながり、こうちん あ すいへいてんかい せいぞう  
つながり、工賃も上げられる。水平展開してトマトジュース製造もプロと組んでいる。

のうぎょうぎじゆつ 農業技術センターのOBなどから指導を受けて良いものを製造する。就労継続B型の利用者りようしゃが就労継続A型の利用を目指すことがある。利用者りようしゃが利用者りようしゃのロールモデルになっている。身近な存在みぢか そんざいに目指す人もいる。

・就労支援担当しゅうろうしえんたんとうをしていたことがあり関心は高いが、施設の利用者せいせつ りようしゃは最重度さいじゅうどなので障害者雇用しょうがいしゃ こようは難しい。どうやって社会しゃかいと接点せつてんを持つかが課題。以前は野菜作り、販売はんばいをしていて近所きんじよには喜ばれたが、今は重度化じゅうどかしており困難こんなん。何なにをして近所きんじよに喜ばれるか。お祭りの時まつ ときに作業さぎょうで行っている染め物おこなのハンカチそものを販売はんばいしている。社会しゃかいに繋がる仕事つなをもってこれられないのは力不足ちからぶそくと感かんじている。仕事しごとを紹介しょうかいしてもらえるとよい。持っている力もを発揮はつきして社会しゃかいとつながってほしい。

・仕事しごとのスキルだけではなく、働くとはどういう事はたらか、その際何ことに気をつけたらよいかを教おしえてほしい。そうでないとなかなか長続きながつづしない。ピアサポート研修等けんしゅうどう、働ける障害者しょうがいしゃをつくる準備じゆんびをしている。福祉ふくしとは自立する為じりつの訓練ための場くんれんであると考えている。障害者自身しょうがいしゃじしんが地域ちいきに出るときでの生活せいかつを学ぶ場所まながあるといい。世間せけんというものを親おやが教おしえていないとなおさら。障害者自身しょうがいしゃじしんに問題もんだいのあることもあるが周りまわの協力きょうりょくはとても大切たいせつ。経営けいえいが厳しいきび。

・障害者雇用しょうがいしゃこようであってもなくても、ピアサポーターの育成いくせいは大事だいじだと思う。お手本おもになれたり、当事者とうじしゃだとわかりあえることも多い。本音ほんねも言いやすい。

・意思いしは伝えられないが、能力のうりょくはある。お金かねを稼かせげる人達ひとたちだと思っている。もう少し能力すこを引き出せるツールのうりょくが発展はってんしていくとよい。就労しゅうろうにつなげる制度せいどを作つくってお金かねをつけてほしい。(就労継続支援B型しゅうろうけいぞくしえんの手前がたあたりの位置てまえで)利用者いから学りぼうという姿勢まなも大切たいせつなのは。

・身体特性しんたいとくせいにあった作業所さぎょうじよが無い。どうしても不随意運動ふずいいうんどうで体からだが動うごいてしまう。脳性マヒのうせいでも簡単かんたんに操作そうさできる装置そうちがあれば良いと思おもう。

・相談支援そうだんしえんで関わる利用者かかで就労りようしゃを目指しゅうろうする利用者めざもいる。就労選択支援しゅうろうせんたくしえんができたが、これで、その人ひとが持っている適性てきせいを適切てきせつに分析理解ぶんせきりかいできて、やりたいことむすと結びつける部署ぶしょがあるともっとみなさん働はたらきやすいと思おもう。それに向むけた訓練くんれんなどができると良い。それが、健常者けんじょうしゃは自分じぶんでできる。それができない方かたがたが頼たよれる支援しえんがあると良いと思おもう。

自法人じほうじんが児童中心じどうちゅうしんだったので成人せいじんはあまり理解不足りかいふそくであるが、市内しんないだと自立支援センターじりつしえん、基幹相談支援センターきかんそうだんしえんがあるが就労しゅうろうについては特別な支援とくべつ しえんはしていない。

・地域活動支援センターちいきかつどうしえんから就労継続支援B型しゅうろうけいぞくしえんを目指めざしたい人ひともいるが少ない。年齢ねんれいが上あがり、能力のうりょくも落ちおちてくる利用者りようしゃが多く、年ねんに1、2名程度移行めいていどうこうしているくらい。利用者りようしゃは

げんざいとろく めいていど めいていど かつしよ すうねん りよう かた さいこうれい さい  
現在登録が28名程度、25名程度は5日通所する。30数年の利用の方もいる。最高齢75才。  
ほんにん どくじ うご いこう おおほんにん かぞく しえんしゃ かんけいしゃ しえん しゅうろう  
本人が独自に動いて移行することが多い。本人、家族、支援者、関係者などの支援で就労  
けいぞくしえん がた いこう かよ りようしゃ しゅうろうけいぞくしえん がた  
継続支援B型などへ移行していく。グループホームから通う利用者が就労継続支援B型に  
いこう ほうじん かんけいしゃ すす おお  
移行した。その法人の関係者から勧められて、といったケースが多い。

じゅうしん いりよう ひつよう ひと おお ぶんしん むずか しゅうろう むずか かん  
・重心は医療が必要な人も多く、分身ロボットなども難しい。就労は難しいと感じる。  
ただ呼吸器はつけているだけの人で自治体格差で教育が受けられず能力が発揮できない  
ひと かんきょう どうにか かならないかと かん しせん に ゆうりよく そうち つか  
人がいて環境がどうかかならないかと感じる。視線入力装置などが使えるとよい。

にちちゅうかつどう きぎょう く た う ちんぎん すこ はっせい  
・日中活動として企業からボールペンの組み立てを受けている。賃金は少しだけ発生して  
いる。今のところ仕事は足りている。

ヒアリング項目②-2

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 6	こよう しゅうぎょう けいざいてきじりつ しえん かん 雇用・就業、経済的自立の支援に関するしくみづくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (2)	しょうがいしゃこよう そくしん 障害者雇用の促進
	もくひょう 目標	しょうがい りかい すず しょうがいたうじしゃ だれ かつやく しょくば ふ 障害の理解が進み、障害当事者が誰でも活躍できる職場を増やします

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

- ・コロナ禍は社会的には大変だったが、障害者は働きやすかった面も多い。  
テレワークなど障害者にとっては都合は良かった面もある。逆に社会参加ができた。  
いい部分もあったり、悪い部分もあったりしたけど、仕事のオンライン化、は良かった。  
社会の中でもっとそういう社会参加が進むとよい。外に出られない人はそういう制度で社会参加が進むと思う。
- ・盲学校での就労体験等。
- ・はり、灸の資格がある。
- ・自治体での電話交換の経験。欲しい時に必要な人に仕事がない、そうでもない時に頼まれたりする。募集しているが募集の仕方が乱暴。視覚障害と他の障害。障害によって合う仕事、合わない仕事がある。障害者とひとくくりせず、その人が仕事を選べる事が大切。仕事は大切。自分も他人も補う。積みあがったものは宝となっている。障害者が自立するために周りはどうしたらよいかもっと考えてもらいたい。雇う側の理解が大切。
- ・ハローワークを通さず、盲学校に直接求人を出してもいいのでは。
- ・企業は視覚障害者の仕事がわからないので、そこを広げて理解を深める施策が必要だと思う。
- ・50年前から変わっていないこともある。目が見えないと何もできないと思われている。何かしてあげなければいけない人だと思われている。同じ身体障害者でも肢体不自由の方は仕事ができる。見えるので。そういう人には仕事がある。そこに障壁が無いと思う。精神障害の方でも安定していれば障壁が無い、知的障害の方も、ある一つのことに集中し特化してできる仕事がある。何らかの障壁を解消できれば仕事はあるようになる。  
ジョブコーチは、障害者にとって、この仕事のここの部分が障壁であり、これを無くすことができるとう仕事が可能になると企業に提案してくれる。しかし、ジョブコーチは知的障害

者の仕事では多いが、視覚障害では少ない現状。神奈川県にはいないのではないかと、ここが進まないと思ふ。そこを進めば計画は進んでいるとなる。

・色々な支援が必要、職業開拓や研究（障害者別の雇用の仕方や職業内容など）。どの障害が何をできるかとか何の適性が合うとか、研究していくこと必要だと思ふ。

・視覚障害の職業で、日本で一番多いだろう鍼灸マッサージ師として福祉施設で今も働いている。常勤で40年、オープン当時から継続して働いている。目が見えないことを理解してもらい、上司や周囲の配慮がある。自分の役割はこれだときちんと持たせてくれるのが大切で、モチベーションを維持できるようになる。

パソコン、書き込み、コミュニケーションなど、障害者側もある程度頑張らないといけないことも、学ばないといけないこともある。障害者も健常者もどちらも一緒に働いているということ大切に頑張る必要がある。自分は恵まれたケースだったかもしれないが、とても大切なことだったと思ふ。きちんと任された仕事がないのに職場にいて働き続けるのは難しい。

・障害者雇用の職域を広げるために、もっと企業がジョブコーチの支援をできるようにしてほしいと思ふ。

・もう定年を迎えているが、ずいぶん以前に障害者雇用の合同面接会に行ったら、受付でいきなり視覚障害者の仕事は無いと言われた。無いなら先に言っておいてくれという感じだった。それでも、会場をぐるぐると回ったが、主に知的障害のための雇用の面接会の感じがした。いきなりそんなことを言われたので何だったという思いだった。相当昔の話だから、今は変わっているかもしれないが、情報提供をしっかりとほしいと思ふ。

・仕事内容ではあまり感じてはいないが、同僚とのレクリエーション等に参加できなかったことが多い。

・県外で最初していた仕事が、病気になり障害が残りにできなくなって戻ってきた。ハローワークの面接官にお世話になり再就職でき準社員で働きだした。その時、履歴書を何通も書くのが大変だった。合同面接会で履歴書5～6通持って受けに行ったが、障害の重さもあるが、年齢でも難しくなっていた。たまたま、出会った方と縁があつて、面接を受けて働かせてもらって10年ほど働いた。座って設計していると、後ろを通る人が「邪魔だ」とぶつかってきて意地悪された。中には身体が不自由な診断書持ってこいという意地の悪い上司もいた。一生懸命頑張っているのにハラスメントを受けた。左手が利かないので歩いていると手がぶらぶらしてしまう。周りの人が、「この人はすぐ人のお尻を触る」と意地の悪いこと言われた。仕事を継続していくためには身体の障害のことを適切に理解してもら

えないと難しいことが多い。片手では難しい仕事も多い、ほんのちょっとしたことだけど、工夫が必要になる。定年退職したときは、逆にほっとした気持ちになった。

・掃除の仕事をしていたが、できないことは何ですかと言われたから伝えた。できない仕事は伝えて、抜いてもらった。配慮してもらった。そうはつきり伝えるのも大事。

・雇用は進んでいるが、それは当事者の希望ではなく、障害者の立場に立っていない。

審議会でも総論に時間が割かれ、各論の議論に時間がかけられていない。

・県内各市町村へ障害者雇用状況を尋ねても、「雇用している」と回答があるだけで、個人が特定されることを理由に障害種別や等級、人数については回答がない。例えば、かつて電話交換は視覚障害の花形だったが、今は色々な会社が外注している（派遣とか）。県でも会計年度で雇用しているが、視覚障害者率は昔に比べれば低い。

・私は電話交換で雇用してもらっている。雇用率達成のために雇用するが、雇用して終わりでその後のケアがない。同じ職場の同僚に任せきりで、他の職員は何もしない。職場の理解が進んでいないと感じる。通勤中も同じ職場の職員が何も言わず横を通っていく。

信号が変わる時の声かけだけでもいいし、少しの距離を一緒に歩いてくれるだけでもいいのに何もなし。雇用して雇用率は上がるけど、その後は何もなしなので、だから仕事が続かない。

ある課の人は声をかけてくれるけど、他の職員は声をかけてくれない。

・ジョブコーチのように定期的に訪問して困っていることを聞いた方がよい。中途障害は特に必要で、退職したくなくても退職しなければならないことも多い。仕事を続けるためには、自立訓練でパソコンなどの技術を学ぶことが必要とされる。視覚障害者はただでさえ選択肢が少ないのに、相談体制も整っていない。制度に詳しくない人が相談を受けると中途障害であっても就労継続支援B型を紹介されることもあり、一般就労に就けない。

市町村の障害福祉課の職員にまず言われたのは、NHKが安くなるなど割引制度について。

これからどうするか、どうすればよいかを知りたいのに、そこを教えてくれない。

職員がすべて覚えるのは難しいだろうが、せめて相談先を知ってもらっただけでも次につながる。

・手帳を交付する市町村職員が、2～3年で移動してしまうこともあり、自立訓練などを紹介してくれない。脊椎損傷の人たちはリハビリしてから相談に行くから選択肢が多い。

視覚障害もリハビリはあるが、ほとんどの人がやってない。

・「何か手伝うことはありますか」といった声かけだけでもいい。

権利条約ができて差別はある。障害者に対する啓蒙が少ない。市町村も3年くらいで

職員が異動してしまうので、正直使いものにならない。福祉に関してはあまり異動しても

raitakunai. さいていでもねん5年くらいはいないと、しょうがいしゃへのたいおうができてない。しょうがいしゃへのたいおう、たとえばしやくしやうがいしゃがきたらどうするかといったけんしゅうはやっているのかと思う。その人がなにこまに困っているのかをかんがえてほしい。じょうれいもそうろんで、しゅうろうについては「しょうがいしゃのしゅうろう」と書いてあるだけ。

・しょうがいに対するたいりかいは足りていない。こえをかけてくれるだけでいい。

けんしゅうはじちたいによってやっているところとやっていないところがある。しょくいんがかわるのはしかたがないかもしれないが、ちくせきしたものをどうつたえるかかんがえないといけない。けんしゅうの場でしょうがいべつとうじしゃが話すことがだいじ。それがとうじしゃめせんにつながるとおもさべつまでいわずとも、しょうがいとくせいへのりかいはふかめないとはいけない。

とあるしょうがいしゃがしちやうそんまどぐちりれきしょだいひつたのセンターに行けと言われてきた人がいた。それくらいは書いてあげてほしいと思う。なぜその人がまどぐちにきているのかかんがえてほしい。くるまいすとうきゅうきゅう1級だが、いすすわふつうしごとで、しょうがいのとくせいにおうかたがあっていいはず。しょうがいのとくせいじんじはいちだいじの特性にんじたり方があっていいはず。しょうがいの特性とじんじはいちだいじの人事配置がだいじ。

#### かぞく (家族)

・むすこはしょうがいしゃこようわくはたらひやくえん100万円で勤務。ねんしゅう103万円で働いている。できれば、しゅう5日働きたいと思っている。いっばんこようわくはたらおもうが、なかなかむずかしい。あくまでもしょうがいしゃこようわくはたらいっばんわくいこうはかせせてもらえない。ほかを求めてしごとをうしなうのもこわい。

・かぞくがいっばんきぎやうのしょうがいしゃこようわくはたらはたら10年くらいになる。ふつういっばんひとなかで働いていたが、ぜんぜんしょうがいしゃのきもちとかわりかいてもらえていない。

そういうなかでも、なかかちやうたいおうが、課長さんがたいおうしてくれたり、冗談をいって来て、なじめんできて、たいへんだけれど、むこうもりかいはしようとしてくれたり、自分もがんばろうと思えることもある。

きゅうとうしつざつだんじぶんおもしろい。じょうしそつだんおれ。給湯室の雑談が自分のことだと思ってしまう。上司に相談したところ「俺のことだから気にするな」といって来て、あんしんできた。こまに困ったことをつたえてみるのがだいじだし、職場にも、こういうことからもうそうで理解してもらおうのがよい。はたらきやすくなる。

ちんぎんやすひとりぐ。賃金が安いのでひとりぐらしができていないといっている。おやもとひとりぐらしをしたくてもむずかしい。

しょうがいねんきんこうしんじき。しょうろうりゆうにうちきられた人がいた。でも、あくまでにしょうがいしゃこようわくでのこようわく、ねんきんをきられた方はかたふあんになりしごとがつづけられなくなってしまう。職場のりかいはたいせつだし、ちんぎんたいせつ。理解もたいせつだし、賃金もたいせつ。

・じたんきんむえら。時短勤務が選べる（ちやうじかんろうどうむり）。つうきんじかん。通勤時間がずらせる（まんいんでんしゃの）。

など しょくば りかい あんしんかん かんきょう  
等への職場の理解や安心感のある環境があるとよい。

・就労、特例会社、あれはインクルーシブじゃない。色々な問題を共有しながら解決していくべき。雇用率は達成するかもしれないが。

### (支援者)

・当事者の敵は当事者だ、就労すると敵になる、と言った当事者がいる。

障害者が普通の雇用をされていても「障害者だから」と健常者の視線を置いておく必要があるのではないか。

・雇用で苦勞している話を聞く。「誰か就職してくれないか」という相談を受けることもある。助成金がでなくなると困るので、極端な話としては基準日に合わせて雇用すればよいと考えてしまう。法人では障害者を3名雇用している。ハローワークに求人を出すと一般枠で応募してくる人がいる。あとから「実は手帳を持っています」と言われたことがあるが、知らないと配慮ができない。

・一般企業に対し、雇う側としての法定雇用率など、数値目標を設定するのであれば、その中身に当たる受入れ環境の整備状況まで確認してもらいたい。そこに関しては、条例と同じくらいの温度感で基準を示すことに力を入れてもらいたい。障害種別を分けてカウントしたりもするが、実際には一人の人に複数の障害種別の特性があることは珍しいことではないと思う。そうした受け入れるに当たっての実際の細かい場面までを想定してほしい。

・障害者雇用と一般雇用では給料が違う。働きたい意欲がある人はいる。受け入れる会社もある。ただ現場は障害者をわかっておらず、強くあたられた、と障害者は辞めてしまう。雇う方は配慮が必要。

ヒアリング項目③

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	ともに生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (1)	当事者目線の障害福祉の理念の普及啓発
	もくひょう 目標	県民の誰もがお互いの目線に立ちながら障害福祉を考える社会をめざします

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・計画や条例について、聞いたことがあるか？を尋ねた際に「ない」という回答で、「みんなで読める版の条例」や「かながわ憲章」を受け取り、「グループホームに帰ったら読んでみます。」との話があった。現状、普及啓発については、利用者個人単位までは進んでいないことが感じられた。

・自分は今45才の中途障害であり、約7年前から障害の状態になった。こういう人もいるのだと周りの方々は理解して認知してくれて当事者目線の普及は感じる。

一方、見た目が元気だと障害の認知が薄くなる。当事者の状態が理解できずに当事者目線になってもらえない人もいる。自分は呼吸器やストマをつけているが、障害者なのに来るの？電話するの？思い込み、先入観だけで言うてくる人もいる。障害者イコール寝たきりと思っている。その人の価値観で目線や考えが変わっていく。

当事者目線は人それぞれの基準や価値観で、よく分からない。不明、何を考えているのが分からない。当事者に本人がならないと分からない。なれば分かる。ならないと本当の意味では分からない。腕が無いとか寝たきりとか、ぱっと見で大丈夫かと思うと当事者を理解しようとするけど、見た目では分かりにくい中途だとすぐに当事者を理解するのは難しい。

・情報としては届いているが、どこからきいたかは覚えていない。点字はテキストから自分で起こした。

・情報が膨大だと、正確な理解が難しい。

・点字は読めるので理解は可能。障害者が自然にいて理解が深まる。

・条例ができて実践しないと周りについてこないのでは。

・県から伺っているので知っているが、普通の生活の中では知らない。今回、周囲から聞いて初めて知った。知り合いの小学校の先生に聞いても説明しても知らなかった。

・県からの知らせだけ。

- ・前に多少聞いたことがあるくらい。
- ・条例の冊子は初めて見る。「ともに生きる」のポスターは見たことある。
- ・記憶にはない感じ。
- ・聞いたことはある。今の知事になってからよく聞く。一般の人はどうか。
- ・私たちも使う。プレゼンでも「当事者目線で実践する」と説明した。
- ・障害とか関係ない場だと、こども目線、女性目線とかある。「当事者目線」だけだと誰？

となる。

- ・神奈川県では審議会の委員に当事者が入っているが、市町村では当事者が入るのは少ない。

障害福祉計画ならあるが、総合計画とかだと入っていないことがある。

- ・何の当事者なのか。一般の人に聞いたら、当事者とは誰なのかとなる。「当事者目線」だけだとわかりにくいのではないかと。「障害者の立場に立った視点」とかの方がわかる。当事者が誰を指すのか明確にしないとわかりにくい。一般の人に知ってもらうためには内容を示さない。

(家族)

- ・進んでいないという印象。社会福祉の方はわかっているが、一般の人にはまだまだ。せっかく作成したのにもったいない。

- ・言葉は知っている。今息子は48歳だが、息子の小さい頃に比べると随分変わってきている。自分の周りではかなり福祉というものが変わってきていると感じている。周りのサポートを感じる。

- ・子どもの頃から障害について知ってもらい、障害がある事は大変だけど幸せであるという事を発信して身近にしていきたい。

- ・以前は意識していなかったが、今は十分わかっている。当事者目線と言っても意思表示できない人は難しいのではないかと。

- ・「当事者目線の障害福祉」という言葉は初めて聞いた。周りでもあまり聞いたことはない。障害の内容にも格差があり、重症心身障害者は社会に出ていくことが少ないので、当事者目線で配慮していただいていると感じることは少ない。

- ・障害者を持つ母としては意識して小さい頃から外に連れ出すようにしていた。連れ出せるようにいっそうの環境整備をしてほしい。

- ・まだまだ普及していない。身近に障害者がいれば理解できるが、いないと変な目でみられる事がある。今の住宅地の中では理解がある。コロナ前は町内会が実行委員となって、夏祭りを盛大に開催していたこともあり、地域に根付いている。

・自分は兄弟に障害を持つ者がいた事もあって、小さい頃から当たり前としてしている。社会全体としてはまだまだかな。他人からするとわけていると思う。利用者と職員と区別していること自体も。当事者の立場になって対応するようにしている。広がってきているとは感じる。

・引き籠りだった人が一歩出て、グループホームでは皆と生活を共有すると、この段階で、問題が出てくる。食事の時間がずれている。「場所が良くない。あそこはうるさい。」など、スケジュールが決まっているが、その人よってはかなり遅い、早いがある。自分の部屋でもってしまいう人もいる。皆で食事をするようにしているが、「自分は違うし出来ない。できないと自分を否定する。相手を否定する。世の中が違う。世の中に社会に慣れたいが、自分の世界があってそれに合わないのは許せない。」。なんとか世の中と共有できるようになって欲しいが、否定もせず、時間をかけて促していく。精神的に理解できるように慌てず、時間かけて、本人を認めながら、社会を変えていこう、と家族の場合は特にきつい言葉も出てしまうが、とにかくゆっくりやらないといけない。

・当事者目線、意思決定、虐待の研修を職員が受けているが、意識が変わってきた。大事にするようになったと思う。そういう視点が身につけてきた。

・当事者も親も助けて欲しいと思っている。支援、援護射撃を期待している。助けて欲しいと思っている当事者もたくさんいる。

・支援者は知っていると思うが、利用者、家族は知らない。窓口があることも知らない。条例のリーフレット等も回ってこない。施設に冊子を配架したほうがよい。

特に地元市は情報が行き届かない。まずは知ってもらうことが大切なので、「当事者目線の障害福祉」をかみ砕いたタイトルがあるとよいのではないかと。家族が入所している施設の職員は強度行動障害の研修を受講しているが、「当事者目線の障害福祉」は半分くらいしか知らないと思う。

・障害でなくても高齢など福祉の仕事に関わっている人達は知っているが一般の人にはまだまだだと思ふ。企業は啓発するようにはなっていると思う。当事者目線というのはあたり前で、憲章があったからというものではない。

・聞いたことはある。当事者目線はとても大事、みんなに言えること。障害福祉に限らず、その人その人に合った福祉を考えていくことが大事だと思う。

・記事を読んだりする中では耳にした事はあるが、お母さん達との話の中ではきかない。

・記憶にない。公立支援学級の親の中ではこの言葉は出てこない。

・当事者目線という言葉は知らない。

・こちらから助けを求めなくても、障害のことを理解して、配慮してくれるお店や人が増えてと感じている。

・かながわ憲章は団体の大会の冊子に載せようと思ったが、許可取りに時間がかかって断念した。委託事業でやっているようだが、憲章を広める観点からするともったいないと思う。

・言葉は知っている。目線というのは間違っていると思う。県民総ぐるみといっているが、そうになっていない。啓発している地域でしていない地域も多い。いくらやっても一過性、その場しのぎ。仕掛けの工夫が必要。総合支援法の中で県ができる事はなんですか。県はきちんと県としてしっかりしてほしい。「当事者目線」という言葉は入っていない市町村もある。それで県民総ぐるみといえますか。議会も行政と一緒に作ったならもっと活動してほしい。

・やまゆりの件があって耳には入るが、言葉ばかりで具体的にどうするのかという話が伝わってこない。

・あまり耳にしない。

#### (支援者)

・「当事者目線」は簡単に理解できないものとしての認識が必要。お願い周知が大切、号令周知では説得にかける。もったいない。

一生障害者と関わらないでいられる人達をどう取り込んでいくのか工夫が必要。

・「わかっていますよね」という内容だと思う。

普及啓発はほぼノータッチ。ポスターを貼る程度。職員にも聞いてみたがピンとこない様子だった。県外の人はそのも津久井の事件も「神奈川県のできごとですよね」という反応。

「当事者目線の障害福祉」と言っても当事者一人ひとりに幅がある。どこがターゲットなのか、幅が広すぎる。

・言葉を伝えられる人には良いが、それが出来ない人には難しい。その層が抜けている。その層の方が厳しい、数も少ない。進め方が違うのではないか、大変な方から進めて欲しいと思う。

・一般の方にも理念が広がってほしい。条例もきっかけの一つになるといい。改めて注目と言うより、特別扱いなく、当たり前の考え方になるといい。身の回りに目を向けると、身体、知的、精神障害なんてどれも一緒と一線を引く方はいた。

・事業所にポスターを貼っている。ともいきのTシャツを着ている人が多く、10人くらいが合わせたかのように着ていることを目をする事がある。

ともいきフェスティバルに参加した。神奈川県知事に、事業所で製造しているパンを食べて

もらった。ただ、神奈川県もいろいろとやってくれているが、だんだんと薄れてきている気もする。7月の事件の日は盛り上がり、その時以外は薄れているが、忘れてはいけないことではある。

・県のたよりで目にしている。ともいきアート展も見に行った。理念は関心のある人のみ、一般には広まっているとは言えない。自施設の職員も認知度は低い。県は遠い存在。

・障がい者が支援員への不満として切り取った形でこの言葉を使って訴えてくる事がある。

・自分は自分が自立をする。その為にどうするかということの基本となっている。

大切なことだと思いが、周りの理解はまだまだだと思ふ。利用者はあまり気にかけていない様子。

・この事に関わっている人はわかるが、他の人はわからないのでは。高齢者は使わない言葉ですよ。

・療育の時からやっていないと社会のルールを学ぶ機会のないまま大きくなっている。

殴ってあたり前、やられたらやり返すのがあたり前という人が多い。親が子どもの障害に甘くなりすぎている。大人になってからは難しい。グレーゾーンの子も踏まえた支援を

してほしい。そういう子達の事を相談する場所がなく、親も悩む。

・説明で聞いたことある。ただ当事者目線とは何だろう？自然に皆が一緒に本人目線に立っている気がする。ともに生きる感を感じる。職員と利用者で作り上げている。

・聞いたことがあるくらいの程度だが意味はよく分かる。当事者の意思を推測して支援をしている。自然な感じで意識している。

・笑う事ができるなどの場合どっちがいいかは推定していくしかない。どこまでが親の気持ちで、どこまでが子供の気持ちなのか悩ましい。終末期または医療ケアをどこまでするのか難しい。

・業界で働いている人には普及しているが、一般の人はどうかわからない。ポスターは見かける。

・出来た時、本人に見せた記憶はある。

はしらばんごう いけん  
柱番号ごとの意見

がいとう 該当ページ	はしらばんごう 柱番号	はしら 柱	けんすう 件数
48	I 1(1)	けんりようご すいしん ぎゃくたい ぼうし 権利擁護の推進、虐待の防止	1
48	I 1(2)	しょうがい りゆう さべつ かいしょう 障害を理由とする差別の解消	0
49	I 2(1)	しょうがいふくし ささ じんざい かくほ いくせい 障害福祉を支える人材の確保・育成	18
52	I 2(2)	ほけん いりよう ささ じんざい かくほ いくせい 保健・医療を支える人材の確保・育成	4
53	II 3(1)	そうだんしえんたいせい こうちく 相談支援体制の構築	21
56	II 3(2)	ちいきせいかついかうしえんとう じゅうじつ 地域生活移行支援等の充実	4
57	II 4(1)	しょうがいふくし サービス等 せいび じゅうじつ しつ こうじょう 障害福祉サービス等の整備・充実と、質の向上	16
59	II 4(2)	ちいき しえんたいせい せいび 地域における支援体制の整備	4
60	II 4(3)	ほけん いりようしさく すいしん 保健・医療施策の推進	1
60	II 4(4)	しょうがい こ しえん じゅうじつ 障害のある子どもへの支援の充実	3
61	II 4(5)	しょうがいとうじしゃ かぞくなど しえん じゅうじつ 障害当事者やその家族等への支援の充実	8
63	II 4(6)	しえんしゃ む とりく すいしん 支援者に向けた取組みの推進	2
64	III 5(1)	だれ す すいしん 誰もが住みやすいまちづくりの推進	5
65	III 5(2)	い しそつうしえん じゅうじつ 意思疎通支援の充実	0
66	III 5(3)	じょうほう アクセシビリティ(利便性) こうじょう 情報のアクセシビリティ(利便性)の向上	6
67	III 5(4)	どうせんたんぎじゅつ かつよう しえん デジタル等先端技術を活用した支援の じゅうじつ 充実	0
68	III 5(5)	ぼうさいおよ さいがいはっせいじ たいせいせいび 防災及び災害発生時の体制整備	3

69	Ⅲ5(6)	はんざいひがい しょうひしや 犯罪被害や消費者トラブルの防止と被害者 しえん じゅうじつ 支援の充実	0
70	IV7(2)	しょうがい りかい さべつかいしょう そくしん 障害の理解と差別解消の促進	7
72	IV7(3)	しょうがいしやしゅたい かつどうとう そくしん 障害者主体の活動等の促進	0
72	IV8(1)	きょういくかんきょう せいび 教育環境の整備	1
73	IV8(2)	インクルーシブ 教育の推進	1
74	IV9(1)	ぶん かげいじゅつおよ よ か かつどうとう とりく すいしん 文化芸術及び余暇活動等の取組みの推進	6
75	IV9(2)	スポーツ活動等の取組みの推進	2
76	その他		7
		ごうけい 合計	120

いけん こばしら  
意見（小柱ごと）

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 1	すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱（1）	権利擁護の推進、虐待の防止
	もくひょう 目標	すべての人の権利が守られ、障害者虐待のない社会を目指します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価（意見）>

とうじしゃ  
(当事者)

ぎゃくたい はなし こわ おも こうれいしゃ しょうがいしゃ しせつ あず しんせつ  
・虐待やいじめの話は怖いと思う。高齢者、障害者を施設に預けたのに、親切なスタッ  
フが裏でいじめや虐待をしていた話は絶対に許せない。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 1	すべての人の権利を守るしくみづくり
I	こばしら 小柱（2）	障害を理由とする差別の解消
	もくひょう 目標	障害を理由とした差別を無くし、安心して暮らせる社会を目指しま す

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価（意見）>

なし

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 2	ともに生きる社会を支える人づくり
I	こばしら 小柱 (1)	障害福祉を支える人材の確保・育成
	もくひょう 目標	誰もが安心して暮らせるよう地域社会を支える福祉人材を確保、 育成します

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・書面は、わかりやすく書いてあったのでじっくり読ませていただいた。盲導犬補助犬法をみんなに知ってもらって啓発活動がある。頭数が減っていて予算は個人には付けられないこともあり、なかなか増えない状況がある。人材はどうかと思う。自分のところは大きい組織で他のところより安定はしている方だと思うが、小さな施設は大変だと思う。頭数も人材も減っている。補助犬を求めている、今なら持ちたいと思っても、一年待たされると生活状況も変わる。施設や訓練士は大変、生き物と人材を育てるために手厚い支援が必要だと思う。地域格差や数の問題もあると思う。

・勤務先(福祉施設)の人手はやはり大変で、足りていないと思う。色々な障害、3障害があり、そこで働く人も専門性を求められ、すぐに身につくものでもないから大変だと思う。色々な方が入って、精神面も含めて大変だと思う。県の方々も行政も施設を見に来て欲しい。お金と人と時間が必要と思う。障害の方が選べる選択肢があることで意思決定できる。地域移行といわれているが、施設は皆、いっぱいいっぱいになっている。地域の人が知って欲しい。

・余裕がないところで、虐待を起すのはいけないといっても、疲弊して賃金が少ない人にどこまで求めるのだと思う。職員さんたちの大変な現状がある。もちろん、虐待は良くないことだが、「もう勘弁してくれよ」だと思う。必要なことに必要なお金をつけて欲しい。

・私たちのところは人手不足でなかなか思うように日中活動ができない。スタッフの給料が増えると、スタッフも増えて良いと思う。そうすれば、日中活動もできる。

(家族)

・後々はヘルパーを利用して一人暮らしをしてほしいが、なかなか環境を整えるのが難しい。ヘルパー不足は家族の負担となってくる。見えづらい、わかりづらい障害なので、まわりは温かく見守ってほしい。

・相談支援業務を行っている人に現場経験があるとは限らない。

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修では、児童分野で普段、勤務している方もいたが、成人の支援計画を作ることについて、イメージが湧かない方が多かった。児童養護施設勤務の方が障害福祉のイメージが分からないなど、分野が少し違うだけでもやはり理解が難しいという面がある。お互いを知ることは大切。

・グループホーム、ヘルパーはどきも足りない。賃金が安く長時間労働。待遇を良くしてほしい。補助金も減らさないでほしい。休日の外出や、事業所への送迎も人手不足を理由に受けてもらえないことがある。

・利用者さん全員、相談支援は入れてもらっている。入所の際には相談員がついているか、つける予定があるかを確認している。コーディネーター役はいてほしいし、職員の負担を減らす、分散するためにも必要と考える。職員は充実している。職場から駅まで徒歩6～7分というのが魅力でもあるようだ。オープニングから多めに職員を採用していて、その人たちが今も働いている。そのため休みがとりやすい。夜は不足しがち。

・不安に思うことは、人手が足りない。行政も事業所も病院もどきも、一人で何千人もみているところもありおかしいと思う。地域包括ケアの話も、医師も看護師もワーカーもできたら近いところだと思うが、実際は一人でそんな対応でできるのか、果たして身近なところでできるのか。医師も看護師も病院も人手が足りていない。医師、看護師、ケースワーカー含めて、行政で手立てを打って欲しい。本当に地域で活動していて、人手が足りないのを感じる。特に医療福祉は、命に係わる部分でもあるので何とかして欲しい。

・国からの報酬で職員の待遇が決まってしまうので、どうしても厳しい。

・職員の確保については、障害に関わる人が少ない、手を上げる人が少ない。でもやってみたら面白かった。私には障害福祉は「沼」、おもしろいと思う。福祉の仕事をおもしろいと教える側がならないと、なり手に伝わらない。堅苦しくなく、がっちり研修だけではなく、この研修は楽しいという教え方ができるか、研修できる事業所があれば人手不足は解決できるかもしれないと思う。障害のイメージを悪いという概念をなくしていかないといけない。楽しくなるよと教える側がならないといけない。

・少子高齢化で人数が減っている中、福祉人材の確保が重要だと思う。福祉という分野に見合っただけの給料を支払わないと人材の確保には繋がらないと思う。

・入所施設は入所施設でいいところもある。人数も多いし、人を育てる為にも大切な場所となっているのではないかと。現場で実際学ぶ経験が必要。

・放課後等デイサービスに関わっているが、自閉症、知的、発達障害の子供が増えている、

その子たちが、精神障害の成人になっていくとどうなるのだろうか、大変になると思う。

男性職員が入職してこない。募集しても給料が安くて来ない。どうにかなかならないかなと思う。補助金などを期待したい。福祉に、とばかり言えないが、放課後等デイサービスの様子をみていると不安が募る。

### (支援者)

・強度行動障害の支援は国研修、専門的な知見のある方に助言してもらい第三者の視点を入れるようにしている。強度行動障害は以前は「厄介な人」のイメージだったが、支援が進み、意思の疎通がうまくいっていないので不穏になることがわかった。支援を続ける必要がある。自施設を希望する市職員は多い。建て替えがあるため、公立の障害者支援施設は少ない。民間施設との交流、職員の交換研修などでスキルアップを図っている。

・卒業して生活介護となると学校のように手厚くはいかない。支援計画はあるけれど、その子のためにどうしたらよいかをもう少し考えてほしい。学校にいる間は訓練、リハビリをしてもらっても成人になってからそういう場は少なく、そこで成長が止まってしまう。子どもも体が大きくなるし、大人は年をとり体力がなくなる。生活介護の場でもっと対応してほしい。その為にも人材の質の向上を望む。ただ人がいればよいというものではない。

・人員はぎりぎりで行っている、以前はボランティアもいたが今はいない。補助金の中で、事業所外活動が大変になっている。相談支援の報酬が少なすぎる。給与の条件がよくないとよい人材を見つけられない。研修内容を充実して、人材育成に力を入れて欲しい。

医療的ケアが必要な人が増えている。医療的ケアが必要なのでなかなか居場所がない。制度はあっても実際には断られる。この先誰がどこまで支えていけるのか。

・運営が厳しい。職員の給料はあげたいが、入るお金は決まっているので。応募してくる人が少ない。法人内で人材育成の委員会を作っている。その中で研修をしたりして法人全体で取り組んでいる。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 2	ともに生きる社会を支える人づくり
I	こばしら 小柱 (2)	保健・医療を支える人材の確保・育成
	もくひょう 目標	誰もが安心して暮らせるよう地域社会を支える保健・医療人材を確保、育成します

＜当事者評価（意見）＞

（家族）

・多くの人に重症心身障害者は、「何もわからない人」だと思われているが、私たちと同じで喜怒哀楽もあり、言葉も理解できる。医療従事者や介護職員にも理解されないのもっと重症心身障害について理解していただきたい。認知症の専門職がいるように、重症心身障害の専門職がもっと増えてほしい。

・サービスを使いたくても必ず医師の診断書が必要と言われる。医者にかかれない人はどうするのか。保健所など訪問してくれる人もいるが人手不足。家に来てくれる人がいるとい。息子は、意識障害のタイミングで搬送されて今の病院につながれた。無理やり連れていく人もいるし、「怪我をしてくれれば連れていける」「何か起こしてくれないか」と言う人もいる。

・地域生活の充実を期待したい。包括が一向に進んでいないと思う。色々やっているのは理解するが、誰も音頭をとっていない、地域医療の整備も含めて進めていない。

（支援者）

・親が亡き後、本人がどうしたらよいかを制度化してほしい。（後見人、お金、施設、生活等）不安なまま暮らしている。看取りまでを見据えた医療職を含む人材の育成をしてほしい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 3	あんしん く ちいき 安心して暮らせる地域づくり
Ⅱ	こばしら 小柱 (1)	そうだんしえんたいせい こうちく 相談支援体制の構築
もくひょう 目標		だれ みぢか ちいき しつ たか そうだん たいせい せいび 誰もが身近な地域で、質の高い相談ができる体制を整備します

＜当事者評価（意見）＞

（当事者）

・相談体制が整えば家族への支援も充実する。（視力が）だんだん見えなくなったときに、家族が犠牲になってしまう話をよく聞く。視覚障害者には同行援護があったり、リハビリもあつたりすると知ること、そこに繋げていければ家族も自分の時間を取れる。相談支援は大事。

（家族）

・いざとなった時に頼りにできる市である。相談支援事業所へつなぐシステムは他の自治体に比べて手厚い。集中的支援については広報活動が行き届いておらず、せつかくいいシステムがあるのに上手くつながらず、とてももったいない。周知してほしい。

・市のサポートがしっかりしている。

・相談員がいなくて、グループホームに入れず、家族が疲弊してしまうケースがある。相談員を増やしてほしい。

・計画相談がほとんどできていない。セルフプランを出してくれと役所から言われる。相談支援をまずはしっかりとやって欲しい。

・市の後見的支援制度の相談支援を適切にしてくれないと感じている。もっと大変な家族利用者に関わってほしい。色々な制度、支援は増えてきているが、本当に欲しいところに欲しい支援が届いていないと家族が訴えている。後見的支援制度の相談支援で訪問もあるが、こちらから出向いている。息子は2か月に一回程度に少なくなったが、プランも立ててはいる。ただ、民間が委託されているから、事業所によって、自治体によってだいぶ違うと思う。

・親亡き後を考えてると相談員がついているといい。

・連携がとれているというよりは、親から積極的に働きかけての連携。相談支援はついてはいるが、相談員が多忙で手が回っていないように感じる。書類を書くのが精一杯で、相談まではできないと感じる。相談支援がついている事自体知らない人もいるのでは。もったいない。

・相談支援がついている事を知らないまま何年か経っていた。相談員が人生の伴走者のよう

な存在そんざいでいてくれたらいいと思うが、多忙おもでそこまで手が回たぼうってないと感じる。

相談員そうだんいんに相談そうだんするというよりは、相談そうだんは現場げんばの支援者しえんしゃにすることことが多い。

・事業所じぎょうしょと同じ法人おなで相談支援ほうじんも行そうだんしえんっているので、自分の周りおこなでは相談支援体制じぶんが整まわってそうだんしえんたいせいいてると感じている。

・団体だんたいで電話相談でんわそうだんを担当たんとうしている。市しへの相談そうだんを勧めすすても、「すでに市しに相談そうだんしたが先さきに進ますすない」と言いわれる。病院びょういんからも本人ほんにんを連れて来きてくださいと言いわれる。

・措置そちから契約けいやくが変わかって相談員そうだんいんの事務量じむりょうが増ふえ、アウトリーチできかないと感じる。

・相談支援そうだんしえんはついてこうれいいるが高齢たんとということもあかり、担当たんとうが変わかった。

何かなにあつた時ときに相談そうだんにのつてくれる相談員そうだんいんがいてそうだんいんるとよい。相談員そうだんいんの顔かおの広ひろさでネットワークも広ひろがり助たすかる。相談そうだんしたいけど相談員そうだんいんがつかひとない人もいけんしゅうる。研修けんしゅうはしてひろいようだが広ひろがってはんとしいていないのはなぜなかいのでしめんだんょう。半年はんねんに1回いちかいくらい面談めんだんがあみなおり、プランの見直みなおしはしてようきゅういる。要求ようきゅうをしてできる事ことはやおもってもらしょくいんぶそくっていると思おもうが、職員しょくいん不足ぶそくでできなしえんしゃかつたりする。支援者しえんしゃが増ふえてほしい。

・行政ぎょうせいの人材育成じんざいいくせいをもつとしてほしい。

### (支援者)

・相談支援専門員そうだんしえんせんもんいんはどのくらい本人ほんにんの事しを知しっているか。相談そうだんは月つき1回かいもしくは3か月に1回げつくらいしか会かいわなあい。連携れんけいができていじれいない。事例かんけいきかんとして、関係機関しょくいんの職員いらいが依う頼うを受けいている当事者とうじしゃからの相談そうだんに対し「(事業所じぎょうしょを)辞やめたら?」と助言じょげん。当事者とうじしゃから「言いわないで」と言いわれたから、とその事しゅういを周つた圍えに伝しえんしゃえなかいぎなひらかつた。また、基幹相談支援センターきかんそうだんしえんが自じりつ立たのため、賃金ちんぎんのため、と就労しゅうろうを進すすめてしまいいがち。

・計画相談けいかくそうだんは半はんぶん分ぶんくらい、半はんぶん分ぶんはセルフプラン。就労継続支援B型しゅうろうけいぞくしえんの利用がただけならセルフプランでも良よいのは、と行政窓口ぎょうせいまどぐちが話はなしている感かんじがあほんらいる。本来ほんらいは色いろ々な関係機関かんけいきかんの目め、相談支援そうだんしえんの意見いけんがあよつたほう良よいので、できれば相談支援そうだんしえんを利用りようしてほしい。入所施設にゅうしょしせつの方は計画相談けいかくそうだんが8~9割わり入むかしっている。昔むかしからの利用りようの人は計画相談けいかくそうだんが入はいっている割わり合あいが少すくない。利用サービスりようの切り替きわりで計画相談けいかくそうだんが入はいることが多おおい。担当たんとうの相談事業所そうだんじぎょうしょがどこまで関かかわつてくれるかは事業所次第じぎょうしょだいな現げんじよう状じょうがあしゃかいる。社会しゃかいとつなたいせつがることことが大切たいせつ。

・相談先そうだんさきは増ふえたが、入所施設にゅうしょしせつの事しを知らちいきない。地域ちいきとつなひくがるモチベーシモチベーションも低ひくい。

連携れんけいを進すすめていすすかないといすすけない。

・相談支援業務そうだんしえんぎょうむをやなかっている中ちいきで地域資源ちいきしげんの差さが大おおきく、支援しえんを受けうけらりようれる量りようがどすこに住すむかによなどつて等差なごさがあかんりすぎると感しよるいじる。書類しよるいも違ちがうので支援者しえんしゃも利用者りようしゃもやりりにくりい。

・人手不足ひとでぶそくということも聞きいているので、ピアひとの人がもかかつていかかけるとよい。

• 本人たちの状況は違うが、ある程度年齢があがったら、支援者をつけた方がよい。情報が足りない。例えば、きょうだいがいるから良いが、他に誰も支援者がついていない。今後を心配している。第三者を支援につけた方がよいとおもっている。

• 何かあって初めてケース検討するのではなく、普段から顔の見える関係作りを心がけている。

• 計画相談は全員ついている。モデル事業を実施するにあたって計画相談がつく動きになった。情報共有等のメリットがある。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 3	あんしん く ちいき 安心して暮らせる地域づくり
II	こばしら 小柱 (2)	ちいきせいかついこうしえんとう じゅうじつ 地域生活移行支援等の充実
	もくひょう 目標	ちいきせいかつ きぼう しょうがいとうじしゃ じしん はんだん もと あんしん ちいき 地域生活を希望する障害当事者が、自身の判断の下、安心して地域 で暮らせる社会を目指します

< とうじしゃひょうか いけん  
当事者評価 (意見) >

かぞく  
(家族)

・グループホームへ入居という方法もあるが、訪問介護や訪問看護を利用して、在宅で暮らすというのもよいのではないか。

・強度行動障害の対策に取り組む重度障害者向けグループホームを設立したい。

おな こころざし ひと おし て せんもんか  
同じ志の人を教えてください。手をつないでやっていきたい。専門家ともつながりたい。  
じょうほう  
情報がほしい。グループホームを立ち上げる為の支援がほしい。軽度の人を入れるが、重度  
むずか  
は難しいグループホームがほとんど。年をとって死ぬまでは一緒にいるが、その後は…と  
おも しんばい ほんにん わか はい じりつ めざ おや こ じりつ  
思うと心配。本人が若いうちからグループホームに入って自立を目指し、親は子どもの自立  
みとど  
を見届ける。そして親は他に支援が必要な人たちの支援にまわるとよい。

しえんしゃ  
(支援者)

いぜん ちいきいこう じゅうどか いこう きょたく  
・以前は地域移行できていた。重度化しておりグループホームに移行しにくい。居宅サービス  
ふ  
が増えないとこれ以上の移行は難しい。

おや こうれいか かか ちいきいこう すず にゅうしょ  
・親が高齢化して、きょうだいに関わるようになってきている。地域移行が進められて入所  
つうかてん こうれい むずか つうかてん こうれい しせつ  
は通過点といわれるが、高齢になると難しい。通過点ではなく、高齢になってやっぱり施設  
とき もど じゅんかんがた しく おも いっぽう  
がよいといった時にまた戻れるように循環型の仕組みがあるとよいのではと思う。一方  
つうこう にゅうしょ ほんにん えら ほんにん  
通行ではなく、入所もグループホームも本人が選べるとよい。それによって本人がチャレ  
きも しっぱい もど ばしょ はば ひろ  
ンジしてみようという気持ちになる。失敗しても戻れる場所があるということで幅も広がる。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ さき ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
Ⅱ	こばしら 小柱 (1)	しょうがいふくし など せいび じゅうじつ しつ こうじょう 障害福祉サービス等の整備・充実と、質の向上
	もくひょう 目標	しょうがいふくし じゅうじつ だれ しつ たか しえん う 障害福祉サービスが充実し、誰もが質の高い支援が受けられる 社会を目指します

<当事者評価 (意見) >

(当事者)

・同行援護の時間制限、自分だと40時間まで。市町村によっては制限をかけて使えない。例えば余暇活動で制限をかけられると、障害者は余暇活動してはいけないのかと思う。

市町村によって全然違う。同行援護は就労で使えないが、民間事業者が通勤にそこまでお金出してくれるわけではない。

・同行援護の時間が自分は今84時間。90時間にしてほしいと言ったがダメだった。

・時間数の違いは、はっきりいって担当者の判断。厚生労働省は「時間数の制限を設けない」と示しているはずだが、それを知らないのか、実態としては時間制限がある。

・市町村から「〇時間までしか出せない」と言われれば自分たちは「そうなのか」としか思わない。

(家族)

・卒業後使えないサービスがあり、将来に不安はある。

・息子に「これからどうする？」と尋ねると、「2050年定年」「グループホームが老人ホームになる」「老人ホームに入る」等答える。

・色々なサービスを利用しているが、どのサービスでも娘のことをよく理解してくれている看護士にお願いしたい。福祉施設を新たに造るのではなく、既存のサービスを同じ場所で利用できるようになってほしい。コロナ禍前は、ショートステイを利用させていたが、突然、医療的な面で受入れを拒否されてしまった。せっかく立派な施設があるのにそれを利用できないのにもどかしさを感じている。

・親亡き後が心配。グループホームで生活しているが、土日は帰宅している。グループホームが住まいとなってほしい。親子で一緒に住めるグループホームがあるといい。安心できる距離で住みたい。子どもは離れて住みたいと思っているかもしれないけど。障がいのある子をもっている親としての立場をアピールしていきたい。

・安心できる支援ができていないから、親は心配で一緒にいたいのではないか。

・障害と介護が一体となった施設を作ってほしい。制度を変えて一緒にしてほしい。

グループホームとそこに携わる人の人材集めをしてほしい。今は人材集めが難しい。給料の面など待遇の改善をしてほしい。

・使える用具が各障害で向上はしている。あたり前に日常生活用具として使えるようになってほしい。

・生活介護の内容の充実を望む。例えば視線入力を使ったり、パソコンを使えたり、備品が充実するとよいと思うが、申請してもなかなか通らない。自費だと高額になってしまう。

練習する機会があれば練習してできるようになる事もある。使い方を教える側の知識も必要。

・グループホームも施設も足りない。住み慣れた地域で、少人数、アットホームなグループホームを立ち上げたい。広いスペースが必要であったり、医療が必要であったり、金銭面で課題がある。医療ケアが必要なので医療法人と連携するなどして継続的に運営していけるようにしたい。

#### (支援者)

・行政からの補助が増えると良いと思う。建物、設備など整備したい。人数も多い方なので少し手狭で室温も上がる。行政に補助を求めたい気持ちは日ごろからある。

・成人以降の特性に対応できる場所が少ない。看取りに対する対応が必要だが事業所の体力が必要。

早いうちから人に身を委ねる訓練が必要。いろいろな経験が必要。子供は子どもの頃から社会性を身につけていく機会が必要。

・親の高齢化が進んでいて、支援がいる人も多い。グループホーム、短期入所等トラブルがあったとき対応してもらえる場所があるとよい。そういう体制が整ってほしい。近くにあってほしい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
Ⅱ	こばしら 小柱 (2)	ちいき しえんたいせい せいび 地域における支援体制の整備
	もくひょう 目標	ちいき かだい ちいき かいけつ たいせい せいび 地域の課題を地域で解決できる体制を整備します

<当事者評価 (意見) >

(家族)

・家族としては、家族にケアを任せ過ぎていると思う。本人が病気になったときからずっとケアしてきた。第三者が何とか関わって欲しい、何とかならないものか。家族は必死になっている。ケアとお通して、関係性にも繋がってくる。親子の距離感がとれない、暴力にもなり得る。脱家族化の提唱が必要ではないか。

・自立支援協議会はそもそもインフォーマルなサービスをどうやって作っていくかから始めたもののはずなのに、自治体や、当事者が入っていない。学識経験者を入れている。助言位ならいいけど。若い人を入れてほしい。

(支援者)

・やまゆりの事件、なぜそれが起こったのかについては出ていたが、親が信号を出しているのに受け入れる所が受け入れていない、親の意思の尊重とって親を虐待している状況ではないか。何故、預かるといふところがでてこなかったのか。経済的理由も調べていない。生活は出来ていたのか調べていない。何故に千葉に行かなければならなかったか。委員会の進め方も当事者家族が委員に入っていないので、アリバイ作りのようになってしまっている。強度行動障害のある方がどうやって地域で暮らすか、それを考えないといけない。第二第三のやまゆり事件が起こらないように。

・精神に障害のある人は土日、夜中に不穏になる事が多い。  
 関われる場所がなくなる。日中活動が休み。家族が出かける、一人になる、一人を感じる時間が多くなるからだと思う。お金もない。  
 行政が休むので対応しない。どこに相談していいかわからない。緊急の際、一時的にみてる病院があるとよい。やむを得ず警察を呼ぶしかない事もある。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (3)	ほけん いりょうしさく すいしん 保健・医療施策の推進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ みぢか ちいき てきせつ ほけん いりょう う 障害当事者が身近な地域で適切に保健・医療を受けることができる しゃかい めざ 社会を目指します

＜当事者評価（意見）＞

（家族）

・精神科医療全般について、虐待、拘束、治療（薬物だけでなく、心理療法などを適切に使用して）に対してしっかりと対応して欲しい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (4)	しょうがい こ しえん じゅうじつ 障害のある子どもへの支援の充実
	もくひょう 目標	しょうがい こ かぞく いっしょ す な かんきょう あんぜん く 障害のある子どもが、家族と一緒に、住み慣れた環境で安全に暮 らせるよう支援体制を整備します

＜当事者評価（意見）＞

（家族）

・レスパイトの中で授業を受ける事が当たり前になるとよい。医療ケアセンターの様な所がほしい。民間で頑張ってもらいたい。

・医療的ケアが必要な場合、付き添いが必要で、家族の負担となっている事が多い。色々な所で生活をしている人がいるという事を知って、選択肢の幅を広げて欲しい。医療機関は対象年齢を過ぎても、継続的な関わりをお願いしたい。

・講演会をやっても次につながっていない気がする。心のサポーター研修を受けて認定証をもらったが、もらってどうすればいいのか。2時間の研修を受けてもそこまでの力量が身についているのか。ペアワークの相手が高校教師で、生徒に対する接し方がわかればいいなと思って参加したと言っていたが、教育現場には確かに必要だと思った。学齢期の自殺が増えているし、そういう方に広めてほしい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいせいかつ さき ふくし いりようたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (5)	しょうがいとうじしゃ かぞくなど しえん じゅうじつ 障害当事者やその家族等への支援の充実
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ さき かぞく ふたん へ かぞく あんしん く 障害当事者を支える家族の負担を減らし、家族がともに安心して暮 らせるための支援を充実させます

<当事者評価 (意見) >

(家族)

・母子家庭で母親が送迎している利用者がある。母親が倒れたらどうするのか。そういった場合の相談窓口がないと大変。

・親亡き後子ども将来に悩みを持つ人が多くなった。不動産相続やそれに関わる相続税等ケースによっては優遇してもらえる制度があるとよいのではないか。障害者の保険と医療について役所の役割が細かく分かれすぎていて、わかりにくい。知らないために損をしている人が多いのではないかと。終末期の利用者が安心して過ごせるようにお坊さんに看取りについての講座を開いてもらいたい。人と話をするのは大切だが、人が苦手な人もいる。犬や猫との戯れでよい表情に変わる人もいるので、助成金等を検討してほしい。

・親の自分としては本人の自立を目指しているのですが親がついているばかりではなく、少し本人と離れた時間を作るためにも親が働ける環境があるといい。職場は本人のいる所から近い、休憩時間に抜けられる等の仕事が見つけられれば働ける人も多いと思う。そういう働き方もあると知ってほしい。

・今はそこまで不自由を感じていない。この先の将来とその準備が不安である。親がいなくなると困らないように、準備できることは今のうちにやっておきたい。

・知的障害や自閉症は通所施設があっても親は昼間は休めるが、精神障害は引きこもってしまう。デイケアに行きたくないといえれば家にいるしかない。親としても職場への電話が増えればパートに替える、辞めるしかないこともある。家族が抱え込む、疲弊してしまう。家族でメンタルヘルスの薬をもらっている人もいる。家族会に入れる人はいいが、入れない人もいる。病院に行けなくて困っている人もいると思う。使えるサービスがたくさんあるのに本人が拒否すれば使えない。病識のない本人をどう医療につなげればよいかという相談もある。

・互助が機能しなくなっている。町内や自治会の良い面が機能するとよい。母親の仕事のできる時間が学校を卒業すると持てなくなる。

・親が働けるように支援をしてほしい。今後活躍できる社会。  
(支援者)

・親がシングルマザーも豊かに暮らせるように配慮された仕事ができるような形を作る必要がある。障害者の親に施設で働いてもらう。支援の仕方がわかる。保護者が、虐待、合理的配慮を学べていない現状もある。引きこもりも多いが、彼らは障害者年金もないので経済的自立はどうなるのだろうか。グループホームの補助金額が自治体で異なる。1万円だったり、3万円だったり、一番高いところに合わせればよいのではないか。それに近づける政策をやっていただきたい。製品は利用者に行き届くことをやってもらっている。民生委員、ボランティアも手伝ってくれる。交流会も開催している。そういったことで地域とつながることができるので、交流や交流会も補助金などを出してほしい。交流する機会を作り出してほしい。障害者の親を雇い入れたとき、フルにできないから雇いにくい実状がある。雇い入れた企業には加算をつけるなど。障害者の親を雇用すると、障害者にどのような扱いをしているかが分かる。働きづらい親が多い、送迎のバス停に迎えにいかないと(朝夕)いけない。寛容する雇い方が必要。事業所により32時間週休3日など働きやすくしている。早上がりも認めている。近場の人を雇用している。災害対策もあるが、地域のニュースが入る、個人情報保護もあるが、必要な情報が汲み取れる。地域の施設としても開放している、造形教室など施設の有効利用で使ってもらっている。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 4	ちいきせいかつ ささ ふくし いりょうたいせい 地域生活を支える福祉・医療体制づくり
II	こばしら 小柱 (6)	しえんしゃ む とりく すいしん 支援者に向けた取組みの推進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ ささ しえんしゃ ふたん へ しえん しつ こうじょう 障害当事者を支える支援者の負担を減らし、支援の質の向上につ なげるための支援を充実させます

＜当事者評価（意見）＞

（当事者）

・法人の中で異動や退職がある。せつかく仲良くなってもいなくなったりする。

（家族）

・支援者それぞれの能力を安心して発揮して、専念できる環境にしてほしい。わが子だけではなく、後の人達のためにも何か残したい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (1)	だれ す すいしん 誰もが住みやすいまちづくりの推進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ こえ はんえい だれ あんぜん あんしん す 障害当事者の声が反映された、誰もが安全に、安心して住めるまち づくりを推進します

＜当事者評価（意見）＞

（当事者）

・グループホームで生活している。掃除など、大変だが、課題を解決して一人暮らしがしたい。気を遣わずに楽に過ごしたい。お金（給料）がもっとほしい。今はすぐになくなってしまふ。お金があったら利用者同士で出かける機会を持ちたい。土日（休日）は買い物くらいしかできない。もっと映画を見に行ったりして、楽しみたい。

・市内の近場でプールが無い。プールに入るのも大変、支援者も大変。着替える時のリフターがあればもっと良い、移乗のリフターがあれば、気軽に重度の方でもリハビリができるから、嬉しいと思う。

・市バスは障害者が無料の市もあるが、自分の住んでいる市にはない。自治体の差が出ている。色々共通にして欲しい。

（支援者）

・入所施設が山奥にある点。安全面を考へての立地ということもあるかもしれないが、気になる。家族が勤務していた施設では、誰でも外で過ごしてもらふ、という方向性で取り組んでいた。しかし、障害特性により、認めていい範囲を個々で考へていくことは必要なことだと思ふ。

・皆外出したい気持ち強い。施設の立地上、外出は車になるが、車の台数も多くななく確保が難しい。公共機関も少なく、介護タクシーは往復1万円程度かかってしまふ。外出の手段が入所施設は少ない。入所しても外出が多くできるサービスがあると出かけやすくなる。外出は年1回のお楽しみ外出の計画もスタッフとメンバーで考へ企画する。

ただ、例えば、外出先で入ろうと思つたお店が2階の階段で大変、まだバリアフリー化未整備が多い、車椅子で入りやすいお店が増えたらいいと思ふ。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (2)	い し そつう し えん じゅうじつ 意思疎通支援の充実
	もくひょう 目標	すべての人が不自由なく意思疎通できるよう、社会参加を妨げる 障壁を除去する取組みを推進します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

なし

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (3)	じょうほう りべんせい こうじょう 情報のアクセシビリティ (利便性) の向上
	もくひょう 目標	すべてのひとのじょうほうほししょうはか しゃかいさんか さまた しょうへき じょきよ すべての人の情報保障を図り、社会参加を妨げる障壁を除去する とりく すいしん 取組みを推進します

< 当事者評価 (意見) >

(当事者)

- ・デジターが一番ありがたい。ワード、エクセルができると仕事の幅が広がる。
  - ・駅の自動放送を増やしてほしいと要望したが、改善されない。
- 国政調査の点字版の件で嫌な思いをした。
- ・拡大読書器が自治体によって補助の金額に差、そもそも補助が出る出ないの差もある。
- 同行援護、ガイドヘルパーが少ない。市役所で人がいないことを理由に断られた。儲からないからだろう、介護ヘルパーの方が儲かるだろう、定期的に収入あるから。交付金は決まっていると思うが、実態に合わせて支援をして欲しい。タクシーもない、3～4日前に予約しないと確保できない。移動が本当に困る。そのあたりの制度のテコ入れして欲しい。
  - ・視覚障害は「情報障害」ともいわれている。市町村からの通知はその人に合った方法で出してほしい。見えている人と同じ方法でしか情報がもらえない。手話は法律までできた。ガイドヘルパーのなり手が不足しており、市町村から利用時間数に制限をかけられるが、今はICTを使った支援が進んでいる。「アイコサポート」というスマホを通じてサポートしてくれるアプリを無料で利用できる自治体もある。Eye Navi (アイナビ) は、AIで周辺情報を教えてくれる。他にも、足につければ道案内してくれるものもある。法律(障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法)の中でもICTを活用するよう書いてあるので、人手不足ならもっとICTを活用してほしい。ICTを使った情報提供を進めてほしい。
  - ・役所からの手紙は視覚障害者向けに封筒に点字が入っている。
  - ・ちょっとした配慮。神奈川県は手話言語条例がある。点字投票が始まったのは日本。それなのになぜ点字が文字として認識されないのか。点字が文字だという条例があってもいいはず。手すりや駅の券売機など、身の回りには業者努力。手話言語条例の時も点字の話はでなかった。
  - ・要約筆記は県の必須事業。同行援護は任意事業。そこでお金のかけ方が違う。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (4)	どうせんたんぎじゆつ かつよう しえん じゆうじつ デジタル等先端技術を活用した支援の充実
	もくひょう 目標	だれ など せんたんぎじゆつ りかつよう しゃかいさんか しゃかい 誰もがデジタル等の先端技術を活用し、社会参加しやすい社会を めざ 目指します

とうじしゃひょうか いけん  
＜当事者評価（意見）＞

なし

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (5)	ぼうさいおよ さいがいはいっせいじ たいせいせいび 防災及び災害発生時の体制整備
	もくひょう 目標	さいがい つよ ふくし かんてん しょうがいとうじしゃ ふく ひと まも 災害に強く、福祉の観点からも、障害当事者を含むすべての人を守 れる体制づくりを推進します

＜当事者評価（意見）＞

（当事者）

・災害時要支援者登録について、連絡が一向にない。知っている民生委員さんだったが、何をしてもらえるかと問うと何も決まっていなかつた。役所もモデル地区で検討していますと話が終わってしまう。私は避難指示のときどうしたらよいのか。これでいいのだろうか。マニュアルを作るように指示しているとあるが、私の担当はこの民生委員だとわかるだけでも良いと思うが、こちらからアクションしないとわからなかつた。モデルと言っているくらいだから指示が無いのだからと思う。避難訓練でも障害者にこうしてくれと指示も無い。せめて避難場所でも見ていってくれと言つて欲しい。もっと現実的なことをして欲しい。避難訓練については体験会などをしたほうが良い。文章書類だけでは良くない。耳で聞くハザードマップ、自治体が手を上げない限り無い。近所の避難訓練も回覧板で回つてきても伝わらない。声かけも必要、知つてもらふことも必要。

（家族）

・災害時の避難場所がみつからず、自宅にソーラーパネルをつける、蓄電池を購入する等して自宅が避難場所にできるようにした。  
費用もかかり、その辺の補助がほしい。同じように考へているお宅もあるとは思つがけつこう費用がかかる。  
・家の中の危険について対策をしたい。各家の工夫や対策の情報を集め、そこからヒントを得て、ノウハウとして広く知らせる活動をしていきたい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 5	しゃかいさんか そくしん かんきょう 社会参加を促進するための環境づくり
Ⅲ	こばしら 小柱 (6)	はんざいひがい しょうひしゃ ぼうし ひがいしゃしえん じゅうじつ 犯罪被害や消費者トラブルの防止と被害者支援の充実
	もくひょう 目標	はんざい しょうひしゃ しょうがいしゃ ふく ひと まも たいせい 犯罪や消費者トラブルから障害者を含むすべての人を守る体制 づくりを進めます

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見) >

なし

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	とも <span style="font-size: small;">い</span> に <span style="font-size: small;">いしき</span> 生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (2)	しょうがい <span style="font-size: small;">りかい</span> と <span style="font-size: small;">さべつかいしょう</span> 差別解消の促進
	もくひょう 目標	しょうがい <span style="font-size: small;">りかい</span> への理解が進み、 <span style="font-size: small;">だれ</span> 誰もが <span style="font-size: small;">さべつ</span> 差別なく暮らせる <span style="font-size: small;">しゃかい</span> 社会を <span style="font-size: small;">けんみんぜんたい</span> 県民全体で めざ 目指します

＜当事者評価（意見）＞

（当事者）

・社会モデルの理念を啓発しないといけないと思う。身体機能の障害が、「助けてあげないといけない」の理念だと差別はなくなる。企業でも障害者がきたら何かしてあげなさいよ、となる。行政が障害を作り出していると認識しないと差別はなくなる。障害者のために何かしないといけないという考えは差別に繋がる。あなたが持っている設備は誰でも使える、ということ認識しないといけない。差別もなくなる。障害側と健常側と一緒に、未来はそうやって一緒に、障害があるなしに関係ない社会を作りたい。本当の意味で願っている。

（家族）

・昔に比べるとよくなっているとは思いますが、もっと周りの理解や応援があったらと思う。

（支援者）

・各事業者の理念の公表。当事者、支援者、家族、周囲関係機関での共有は大切。

「してあげる」感性的な満足感と優越感の排除が必要。

・ヘルプマークは良い。目に見えない内部障害を持っている方もいるので。手軽に手に入る環境になっていることも重要で、最近ヘルプマークをしまうための専用のケースが市販されており、「楽しむ」という視点も良いと思う。

・県職員も体制が許せば、一般の事務職員の方も含め、積極的に現場を見に来てほしい。

・グループホームの世話人なんて簡単にできると言って入職後、対応の難しさに苦労し、結局、退職に至った方がいた。障害福祉に対する偏見や決めつけはまだまだあるように思う。

・自分たちだけではできない。行政も含めて取り組んでいきたいので、忌憚のない意見の交換をしたい。全国の就労継続支援組織の事務局を担っている。県内の組織の事務局も担っている。意見交換もしている。障害者福祉に対してどうあるべきかを一緒に考えていきたい。

・地域で暮らすのが理想。地域のイベントや施設のイベント（小動物と触れ合う）に近隣の特別養護老人ホームや保育園に声をかけて来てもらっている。

障害に関心のない人にどう関心を持ってもらうかが大事。反対運動にあったこともある。

反対する人もほとんどは普通の人で障害者に接したことがないのに発言する。無関心、無知による差別。障害者も社会で一緒に暮らすのが普通という常識が広がってほしい。

・地域との関係では、以前、近所の庭先でうるさいと言われることもあったが、皆さん、知っていただいていると思うので大目に見てくれているようになった。

理解は多少してくれているからこそ、やっていけていると思う。

その方のペースで来られる場所、働くのは難しいけど居場所として通ってくる。通いやすいところがよいと皆、家族も思っている。生活のリズムもつけられる。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 7	ともに生きるための意識づくり
IV	こばしら 小柱 (3)	しょうがいしゃしゅたい かつどうとう そくしん 障害者主体の活動等の促進
	もくひょう 目標	しょうがいとうじしゃ だれ しゅたいてき かつどう しゃかい けんみんぜんたい めざ 障害当事者の誰もが主体的に活動できる社会を県民全体で目指します

＜当事者評価（意見）＞

なし

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 8	ともに育つための教育の振興
IV	こばしら 小柱 (1)	きょういくかんきょう せいび 教育環境の整備
	もくひょう 目標	すべての子どもの能力や可能性を最大限伸ばせるよう、質の高い きょういくかんきょう 教育環境づくりを目指します

＜当事者評価（意見）＞

かぞく  
(家族)

・見えない障害なので不安。特性が強くて生きづらい事も多い。ここなら安心できるという場所、たとえば教室と保健室をあわせたようなスペースがあるとよい。人手不足でなかなかかもしれないが。付添いに親が時間をとられると、負担も大きい。教育と福祉が分断している。なかなか手の打ちようがないのはそのせいなのか？教育の場面に福祉が手を差し伸べられるようになるとよい。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 8	ともに <sup>そだ</sup> 育つための <sup>きょういく</sup> 教育の <sup>しんこう</sup> 振興
IV	こばしら 小柱 (2)	インクルーシブ <sup>きょういく</sup> 教育の <sup>すいしん</sup> 推進
	もくひょう 目標	すべての <sup>こ</sup> 子どもが <sup>びょうどう</sup> 平等な <sup>かんきょう</sup> 環境の下、ともに <sup>かんが</sup> 考 <sup>まな</sup> え、 <sup>はぐく</sup> 学 <sup>あ</sup> び、 <sup>あ</sup> 育 <sup>あ</sup> み合 <sup>あ</sup> え る <sup>がくしゅうかんきょう</sup> 学習 <sup>せいび</sup> 環境 <sup>めざ</sup> の整備 <sup>めざ</sup> を目指 <sup>めざ</sup> します

とうじしゃひょうか いけん  
<当事者評価 (意見)>

かぞく  
(家族)

- ちゅうがく ふつうきゅう す  
・ 中学まで普通級で<sup>す</sup>過ごしたが、<sup>たいへん</sup>大変なことがあったのかどうかはあまり<sup>わ</sup>分からない。  
よ せんせい  
良い先生<sup>せんせい</sup>だった。良い<sup>よ</sup>ことも<sup>いや</sup>嫌なことも<sup>せんせい</sup>あった。先生<sup>せんせい</sup>によっても<sup>ちが</sup>違う、<sup>ぜんぜんちが</sup>全然<sup>ぜんぜんちが</sup>違う。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 9	たの ぶん かけいじゅつおよ かつどうとう しんこう ともに楽しむための文化芸術及びスポーツ活動等の振興
IV	こばしら 小柱 (1)	ぶん かけいじゅつおよ よ かつどうとう とりく すいしん 文化芸術及び余暇活動等の取組みの推進
もくひょう 目標		しょうがいとうじしゃ みちか ちいき ぶん かけいじゅつ ふ みずか せっきよくてき 障害当事者が身近な地域で文化芸術に触れ、自らも積極的に ぶん かけいじゅつかつどう さんか しゃかい め ぎ 文化芸術活動に参加できる社会を目指します

< とうじしゃひょうか いけん  
当事者評価 (意見) >

とうじしゃ  
(当事者)

- ・ けん ふくし か さいちよう じかん けんがい い か  
県の福祉バスを借りているが、最長8時間までになり、県外に行けなくなった。借りられる時間を長くして欲しい。
- ・ かつどう いどうしゅだん ひつよう こうつうきかん じゅうじつ りべんせい こうじよう ほじょきん  
活動には移動手段が必要である。交通機関の充実、利便性の向上、タクシーへの補助金などでもっと気軽に利用できれば、色々な活動にもっと参加できると思う。タクシー券は地域が違ったら、運転手が分かってもらえないことがあった。最終的には受け取ってもらえたけど、共通にしてほしい。使う側も気持ち良く使いたい。
- ・ おお ひと だんたい にゆうかい ぎょうせい こうほう ほ かいちょう かいいん  
多くの人に、団体に入会してもらいたい、行政に広報して欲しい。会長をはじめ、会員の年代が上がっている。一人でも多くの方が入会してほしい。そのためにも送迎などがあるれば、会に参加してくれる人が増えると思う。個人情報保護の問題もあり、勧誘ができなくなった経緯もある。
- ・ ちいき こうれい すこ からだ わる ひと など かよ げんき ひと じゅう  
地域では、高齢で少し身体の悪い人はデイサービス等に通う。元気な人はそれぞれ自由に好きにしているのではないか。入ってくると良いのだが。フライングディスクのクラブ活動は面白いがなかなか参加者が増えない。以前は料理、カラオケ、詩吟等あったが、いまはフライングディスクのみ。
- ・ ほんばい う てんじ み ほ い み い  
ポストカードが販売で売れるよりも展示を見て欲しい。とも生きアートは見に行きたい。とも生きアートに応募した。色々なアートイベントには応募したりしている。
- ・ がいしゅつ た いろいろ で  
外出してスイーツ食べたい。色々なスタッフと出かけた。

おおばしら 大柱	ちゅうばしら 中柱 9	ともに楽しむための文化芸術及びスポーツ活動等の振興
IV	こばしら 小柱 (2)	スポーツ活動等の取組みの推進
もくひょう 目標		障害の程度や状態に関わらず、誰もがスポーツ活動を楽しみ、親しめる社会を目指します

＜当事者評価（意見）＞

（家族）

・バドミントン、卓球、水泳、ダンスなどスポーツを長く続けている。ダンス発表会に参加している。スキーも30年ほどやっている。タウンニュースに掲載されたことがある。知事から激励も受けた。仕事をお休みして、スペシャルオリンピックのスキー大会（イタリアのトリノ）に半月ほど参加した。周りの人が支えてくれる。スペシャルオリンピックのいいところは拍手が起きる、誰からも拍手が起きる。

（支援者）

・スポーツクラブやアートクラブは、色々な子どもがいることに寛容になれば、もっと楽しいのではないかと思う。これができなくても良いのではないか、多少、特性があっても受け入れられるところもあるが、ルールを守れば誰でも入れる所があれば良い。  
知的、発達障害のある方のサービスを増やすのではなく、もっと地域にそういったサービス、資源があるほうがよいのではないかと思う。

## その他の意見

### (当事者)

・神奈川県職員としては耳の痛い話かもしれないが、県知事が「ともに生きる」と言っても説得力が無い。不祥事を起こした人が言っても響かない。

友人の妹が津久井やまゆり園事件の時の入所者だった。少し関わりがあった。

本人は大丈夫だったけど、あんな事件は二度と起きて欲しくない。

ともに生きる社会、立派なことも書いてあるが重度の知的や精神の障害の方が理解できないと思う。どうやって伝えるのだろうか。計画自体をどこに向けて作っているのか。伝えようがない、伝えられない。誰に向けて、家族なのか。もっと簡単に誰にもわかりやすい形で表現するバージョンも必要なのでは。

・要望に対して回答がきても、見てもらった気がしない乱暴な回答になっている。どこに困っているのか書いているのに、掘り下げてもらえていない。

対面で考えを伝えていきたいが県庁舎入口にゲートができたり、組織が細かくなって県庁内に入りづらくなっている。

・数が少ないと声が届かない。20万人身体障害者がいて、視覚は1万8千人。こんなに少ない、声が届かない。企業も視覚障害者を相手にしても商売にならない。

・地元市の対応について、県に意見を言ったが「政令市に指導はしかねます」と回答された。

それでよいのか。どこに相談をしたらよいのか。

家族が入所している施設の管理者が変更になる予定。当事者の声はどこにあるのか。

### (家族)

・障害年金の判定書、知的障害と同じ質問項目(着替えはできるか等)。精神の場合は社会生活ができないのであって、自分の身の回りのことはできる。これで何がわかるのかと思う。

子どもが回復するのは嬉しいが、3級だと受給対象外となるため、年金が減ると思うと回復が喜ばない。

### (支援者)

・障害者専用の駐車場について、車椅子マークにしている市とそうでないところもある。

市に車椅子マークを外す提案をしたところ、団体から反対があった。使いたい時に使えないという理由。そういったことがあったのは年1回程度だった。既得権を主張するのはよくない。

・手帳の有無だけで障害の有無を判断するのはよくない。